

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	アジア観光論（Asian Tourism Studies）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大 井 功								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 21世紀、世界はアジアを中心に大交流時代に入突する。アジアの人々とのより良い交流のため、アジアの人々の価値観や行動基準を学ぶ。									
授業目標： アジアの文化を学び、アジアの人々と交流ができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：配布プリントを読む		講義 90分	
2	アジアの政治：開発独裁国家が発展した理由を学び、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
3	アジアの経済：先進国がアジア投資を拡大した背景を学び、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
4	アジアの女性：人身売買、国際移住労働などの課題解決策を討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
5	イスラム世界：名誉殺人が無くならない理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
6	仏教の浄土思想：悪人ほど極楽浄土に行ける理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
7	ヒンドゥ教の身分制度：カースト制度が無くならない理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
8	ユダヤ人迫害：ユダヤ人が迫害される理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
9	偽りのキリスト教：神がアダムのあばら骨からイブを創った理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
10	神道文化：日本の最高神アマテラスが女性である理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
11	儒教思想：現在も息づく儒教思想を検証し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
12	武士道：武士がバラより桜を愛でる理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
13	客家：客家人から多くのアジアの指導者を排出した理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
14	風水の科学：江戸の町が風水師の環境学により設計された痕跡を調べ、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
15	チベット仏教：輪廻転生の政治利用を検証し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
教本： プリントを配布する。					参考文献： 藤岡信勝著「教科書が教えない東南アジア」扶桑社 ￥1,500+税				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（授業参加度、小テスト等）（40％）、定期試験（60％）等									
学生へのアドバイス： グローバルに活躍したい人、アジアを愛する人、楽しく学びましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	アジア文化研究 A（Asian Cultural Studies A）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大 井 功								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 21世紀はアジアの時代と言われ、アジアを中心に世界が動き出す。アジアの人々とのより良い交流のため、アジアの人々の価値観や行動の基準を学ぶ。									
授業目標： アジアの文化を学び、アジアの人々と国際交流ができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：配布プリントを読返す		講義 90分	
2	アジアがわかる(Ⅰ)：アジアの政治体制やアジア民族を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
3	アジアがわかる(Ⅱ)：アジアの経済動向やアジアの貿易を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
4	アジアの女性たち：アジアの女性指導者、人身売買を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
5	イスラム文化：イスラム教徒の世界観や他の宗教との関係を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
6	仏教文化：輪廻転生、仏教の教えなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
7	ヒンドゥー教：カースト制度、サティ、ダウリ、幼児婚を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
8	ユダヤ文化：旧約聖書、バルフォア宣言、ユダヤ人を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
9	キリスト文化：新約聖書、宗教改革、キリスト教の矛盾を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
10	神道文化：穢れと差別、言霊、怨霊信仰、天皇崇拝を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
11	儒教文化：批林批孔、位牌のルーツ、忠孝一致を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
12	武士道：武士道と騎士道、名誉、切腹、内助の功を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
13	客 家：流浪の民、男女平等の中の貞女、客家系財閥を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
14	風 水：陰陽五行、風水都市、五行早生を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
15	チベット仏教：ダライ・ラマ14世、中道のアプローチを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
教本： プリントを配布する。					参考文献： 1. 御堂龍児著「風水の秘密」 ごま書房 ¥866＋税 2. 大井功著「チベット文化を読み解く」 祥伝社 ¥780＋税				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（授業参加度、小テスト等）（40％）、定期試験（60％）等									
学生へのアドバイス： グローバルに活躍したい人、アジアを愛する人、楽しく学びましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	アジア文化研究 B (Asian Cultural Studies B)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	大 井 功								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授業概要： 21世紀はアジアの時代と言われ、アジアを中心に世界が動き出す。アジアの人々とのより良い交流のため、アジアの現状と課題を学ぶ。									
授業目標： アジアの課題を知り、解決策がわかる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （ 詳 細 に 記 入 ）					事 前 ・ 事 後 学 習 （ 学 習 課 題 ）		授 業 形 態	
1	アジアの水問題：水不足と水汚染、地下水の危機、国際河川、水道の民营化を考察し、討議する。					事前：なし 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
2	東南アジアの政治とビジネス：シンガポールとインドネシアの攻防を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
3	麻薬文化：阿片戦争、日本と阿片、マリファナと喫煙を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
4	人身売買：子供の誘拐、臓器売買、ペドファイルを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
5	アジアのリゾート：リゾート開発と観光文化を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
6	アジアの世界遺産：世界遺産リストの問題点を考察し、討議する。(アンコール・ワット、タージマハルなど)					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
7	ロングステイ：日本人移民、シルバーコロニア計画、海外ロングステイを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
8	リゾート開発と観光文化：開発による観光文化の変容を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
9	華 人：アリババ商法、プリプミ、ペラナカンなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
10	貧 困：物乞いと宗教、薬物依存、児童労働などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
11	白人略奪の歴史：マゼランの海賊行為、イエズス会と殺戮などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
12	アジア史の真実：大英帝国とインド、日露戦争の意味を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
13	東南アジア史：経済発展、独立、開発独裁を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
14	シンガポールの過去・現在：政治的安定と高い経済水準を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
15	パレスチナ問題：イギリスの三枚舌外交の結末を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分 映像 20分 討議 20分	
教本： プリントを配布する。					参考文献： 1. 柴田明夫著「水戦争」 ￥760＋税 2. 山下清海著「チャイナタウン」 丸善 ￥2,300＋税				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（授業参加度、小テスト等）（40％）、定期試験（60％）等									
学生へのアドバイス： グローバルに活躍したい人、アジアを愛する人、楽しく学びましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	アフリカ文化研究A（Introduction to African Cultures A）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川添 裕子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	高校レベルの地理・世界史の知識。Google Classroom 利用。							
授業概要： 人類史、生態環境、生業、言語について学んだ後、ポピュラーアート、ライフスタイル、助け合いについて学ぶ。ディベート、ディスカッション、グループワークを通して、他の受講生と意見の交換・共有をする。毎回の授業終了前に小テストを行い、理解度について確認し、次の回の授業冒頭で補足説明を行う。									
授業目標： 1. アフリカについて、人類誕生以後の歴史を理解する。 2. アフリカの現在について理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1・2	2－1章「人類誕生」：大陸移動説、アフリカ誕生説、人類誕生、ホモサピエンス、文化の中心としてのアフリカについて学ぶ。					事前：高校地理世界史振り返り 事後：2-1章の復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分	
3	1－3章「生態環境」：大河と大地溝帯、熱帯雨林、疎開琳、サバンナ、砂漠、温暖化と環境について学ぶ。					事前：生態のイメージ 事後：1-3章の復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分	
4	1－4章「生業」：狩猟採集（平等志向、定住化）、農業（商品作物）、牧畜（生態環境の変化と問題）について学ぶ。					事前：狩猟採集イメージ 事後：1-4章の復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分	
5	2－2章「古王国」：東アフリカから学ぶ伝統的な政治、古王国、広範な交易について学ぶ。					事前：王国のイメージ 事後：2-2章の復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分	
6	2－3章「奴隷交易」：人類史における奴隷、近世・近代奴隷制下の奴隷交易、「三角貿易」、アフリカへの影響について学ぶ。					事前：奴隷のイメージ 事後：2-3章の復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分	
7	2－4章「植民地支配と独立」：ヨーロッパ列強によるアフリカ分割と民族の創出、植民地支配、搾取、独立、部族主義について学ぶ。					事前：植民地支配 事後：2-4章の復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分	
8	1－2章「言語」：多言語の共存と多言語使用、スワヒリ語、コードスイッチング、クレオール、言語の階層性について学ぶ。					事前：外国語習得振り返り 事後：1-2章の復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分	
9・10	3－1章「ポピュラーアート」：語りの技と冗談関係、大衆文学、大衆演劇、大衆映画、音楽、ダンスについて学ぶ。					事前：アフリカ音楽 事後：3-1章の復習		講義 60分、グループワーク 20分、小テスト 10分	
11	3－2章「ライフスタイル」：携帯革命、情報革命、送金革命、金融革命、求職革命について学ぶ。					事前：スマホ利用振り返り 事後：3-2章の復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分	
12	5－1章「助け合い」：自然発生的な助け合い、組織的な助け合い、頼母子講（タノモシコウ）について学ぶ。					事前：助け合い経験 事後：4-2章の復習		講義60分、ディベート20分、小テスト10分	
13	1－1章「民族と文化」：国家・言語・民族の重なり、交易と言語・文化、植民地支配と民族文化、アフリカ性について学ぶ。					事前：前期授業振り返り 事後：テスト準備		講義60分、ディベート20分、小テスト10分	
14・15	授業全体を振り返る。最終テストを受ける。					事前：テスト準備 事後：振り返り		講義30分、テスト60分	
教本： 松田素二編『アフリカを学ぶ人のために』世界思想社、2023年、¥2,500＋税									
参考文献： そのつど紹介する。									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20％）、小テスト・レポート等（30％）、最終テスト（50％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： ステレオタイプや各種情報を批判的に読み解く力をつけ、自らの思考を展開できるトレーニングをしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	アフリカ文化研究B（Introduction to African Cultures B）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川添 裕子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	高校レベルの地理・世界史の知識。Google Classroom 利用。							
授業概要： 人類史、生態環境、生業、言語について学んだ後、政治的動乱、和解と共生、自然保護と地域住民について学ぶ。ディベート、ディスカッション、グループワークを通して、他の受講生と意見の交換・共有をする。毎回の授業終了前に小テストを行い、理解度について確認し、次の回の授業冒頭で補足説明を行う。									
授業目標： 1. アフリカについて、人類誕生以後の歴史を理解する。 2. アフリカの現在について理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1・2	2－1章「人類誕生」：大陸移動説、アフリカ誕生説、人類誕生、ホモサピエンス、文化の中心としてのアフリカについて学ぶ。					事前：高校地理世界史振り返り 事後：2-1章の復習		講義60分、ディベート20分、 小テスト10分	
3	1－3章「生態環境」：大河と大地溝帯、熱帯雨林、疎開琳、サバンナ、砂漠、温暖化と環境について学ぶ。					事前：生態のイメージ 事後：1-3章の復習		講義60分、ディベート20分、 小テスト10分	
4	1－4章「生業」：狩猟採集（平等志向、定住化）、農業（商品作物）、牧畜（生態環境の変化と問題）について学ぶ。					事前：狩猟採集イメージ 事後：1-4章の復習		講義60分、ディベート20分、 小テスト10分	
5	2－2章「古王国」：東アフリカから学ぶ伝統的な政治、古王国、広範な交易について学ぶ。					事前：王国のイメージ 事後：2-2章の復習		講義60分、ディベート20分、 小テスト10分	
6	2－3章「奴隷交易」：人類史における奴隷、近世・近代奴隷制下の奴隷交易、「三角貿易」、アフリカへの影響について学ぶ。					事前：奴隷のイメージ 事後：2-3章の復習		講義60分、ディベート20分、 小テスト10分	
7	2－4章「植民地支配と独立」：ヨーロッパ列強によるアフリカ分割と民族の創出、搾取、独立、植民地支配、部族主義について学ぶ。					事前：植民地支配 事後：章の復習		講義60分、ディベート20分、 小テスト10分	
8	1－2章「言語」：多言語の共存と多言語使用、スワヒリ語、コードスイッチング、クレオール、言語の階層性について学ぶ。					事前：外国語習得振り返り 事後：1-2章の復習		講義60分、ディベート20分、 小テスト10分	
9・10	4－1章「政治的動乱」：独立後のアフリカ、旧宗主国の影響、植民地の負の遺産、冷戦、資源争奪について学ぶ。					事前：紛争ニュース 事後：4-1章の復習		講義60分、ディベート20分、 小テスト10分	
11	5－3章「和解と共生」：真実和解委員会、南アフリカ共和国、アパルトヘイト、マンデラ、対話とローカル参加について学ぶ。					事前：携帯文化 事後：5-2章の復習		講義 60分、グループワーク 20分、 小テスト 10分	
12	4－3章「自然保護と地域住民」：自然破壊、自然保護、観光、地域住民について学ぶ。					事前：助け合い経験 事後：4-3章の復習		講義60分、ディベート20分、 小テスト10分	
13	「結び 未来を展望する」アフリカの困難、希望、潜在力について学ぶ。					事前：後期授業振り返り 事後：テスト準備		講義60分、ディベート20分、 記述10分	
14・15	授業全体を振り返る。最終テストを受ける。					事前：テスト準備 事後：振り返り		講義30分、テスト60分	
教本： 松田素二編『アフリカを学ぶ人のために』世界思想社、2023年、¥2,500＋税					参考文献： そのつど紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20％）、小テスト・レポート等（30％）、最終テスト（50％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： ステレオタイプや各種情報を批判的に読み解く力をつけ、自らの思考を展開できるトレーニングをしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義												
授 業 科 目 (英 文)	ア メ リ カ 観 光 論 (American Tourism Studies)						科 目 分 類	専 門 科 目													
担 当 教 員	末 次 俊 之																				
履 修 条 件	前 提 科 目	な し																			
	そ の 他	な し																			
授 業 概 要： ア メ リ カ は 世 界 有 数 の 「 観 光 大 国 」 で す 。 世 界 各 地 の 人 々 が 大 挙 し て ア メ リ カ を 訪 問 す る よ う に な り 、 訪 米 外 国 人 観 光 客 か ら 得 ら れ る 観 光 収 入 ・ 輸 出 額 は 、 ア メ リ カ 経 済 の 中 で も 重 要 な 地 位 を 確 立 す る に 至 っ て い ま す 。 こ の 講 義 で は 、 ア メ リ カ 観 光 の 概 要 か ら 、 観 光 を 支 え る 各 産 業 分 野 、 ア メ リ カ 政 府 （ 連 邦 ・ 州 ・ 自 治 体 ） の 観 光 政 策 な ど に つ い て 学 ん で い き ま す 。																					
授 業 目 標： 世 界 の 人 々 を さ ま ざ ま に 魅 了 す る ア メ リ カ に つ い て 、 そ の 観 光 分 野 を 幅 広 く 理 解 す る 。																					
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）																					
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成				学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養														
◎			○																		
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式																					
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （ 詳 細 に 記 入 ）					事 前 ・ 事 後 学 習 （ 学 習 課 題 ）		授 業 形 態													
1	オリエンテーション					事前：特になし 事後：配布物復習		講義													
2	アメリカ観光の概要①					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義													
3	アメリカ観光の概要②					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義													
4	アメリカの交通・輸送産業①					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義													
5	アメリカの交通・輸送産業②					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義													
6	アメリカの宿泊産業					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義													
7	アメリカの旅行産業					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義													
8	中間テスト					事前：前半の復習 事後：テストの復習		小テストの実施・ フィードバック													
9	アメリカの観光政策①					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義													
10	アメリカの観光政策②					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義													
11	各州の観光政策①ーカリフォルニア州					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義													
12	各州の観光政策②ーニューヨーク州					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義													
13	アメリカの国立公園					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義													
14	アメリカの美術館・博物館					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義													
15	アメリカのテーマパーク 総括					事前：配布物精読 事後：配布物復習		講義													
教 本： 特に指定はありません。										参 考 文 献： 授業ごとに配布物を配り、それに従って授業を進めます。											
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。																					
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 世界有数の観光大国であるアメリカには、人々を魅了する観光資源が豊富に存在します。アメリカ各地の観光資源がどのように開発、活用され、またどのような産業が支えているのか、アメリカ観光の概要を知ることができます。興味があれば受講してみてください。																					
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。																					

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	アメリカ文化研究A（American Studies A）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	廣 本 和 枝								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： それぞれの地域に焦点を当てたテキストに沿って、アメリカ合衆国の歴史と文化について学びます。副教材として図表などのハンドアウトを配布します。									
授業目標： アメリカ合衆国の歴史と文化を学びながら、現代のアメリカについての理解を深めることが目標です。テキストとハンドアウトは英語で書かれていますので、英語を読むことに親しむのも目標です。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			○				◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction: The American Character					事前：なし 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
2	Native American Tribes					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
3	New England					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
4	The Pilgrims					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
5	The Three Northern Rural States and Boston					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
6	Metropolitan New York					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
7	Cosmopolitan New York					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
8	Appalachia					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
9	Thirteen Colonies					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
10	The Southern colonists and Slaves					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
11	The American Music Roots					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
12	Pennsylvania					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
13	The Industrial North					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
14	Middle America: The Prairie and Plain States					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
15	West and East of Middle America					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
教本： <i>Where Are You From? : American Regions</i> J. M. Vardaman 著 音羽書房 鶴見書店 ￥1,900＋税 ISBN978-4-7553-0387-6					参考文献： <i>USA: Customs and Institutions: A Survey of American Culture and Traditions</i> A Regents Publication				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（40％）、定期試験（60％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 毎回、授業内容を確認するために、設問に解答するようにしてください。復習になります。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	アメリカ文化研究B（American Studies B）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	廣本 和枝								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： それぞれの地域に焦点を当てたテキストに沿って、アメリカ合衆国の歴史と文化について学びます。副教材として図表などのハンドアウトを配布します。									
授業目標： アメリカ合衆国の歴史と文化を学びながら、現代のアメリカについての理解を深めることが目標です。ハンドアウトとテキストは英語で書かれていますので、英語を読むことに親しむのも目標です。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			○				◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction: American Family Life					事前：なし 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
2	Out West: California Gold Rush					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
3	Out West of the Twentieth Century					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
4	Alaska					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
5	European Colonies in America					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
6	How Colonies Differed					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
7	The Pacific Northwest: The First and Second Stage of Immigrants					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
8	The Pacific Northwest: Today					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
9	The Southwest: The Kingdom of New Mexico					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
10	The Southwest: Hispanic Population					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
11	Hawaii					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
12	Federal Government and States' Rights					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
13	Issues: Taxes and Textbook Adoption					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
14	Religion in the Regions					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
15	Who believes what in the West?					事前：ハンドアウト 事後：設問解答		講義60分 ワークシート30分	
教本： <i>Where Are You From? : American Regions</i> J. M. Vardaman 著 音羽書房 鶴見書店 ¥1,900＋税 ISBN978-4-7553-0387-6					参考文献： <i>USA: Customs and Institutions: A Survey of American Culture and Traditions</i> A Regents Publication				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（40%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 毎回、授業内容を確認するために、設問に解答するようにしてください。復習になります。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	安全保障とリスク（Security and Risks）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高橋 敏哉								
履 修 条 件	前提科目	国際関係論Ⅰの事前履修が望ましい。							
	そ の 他								
授業概要： 国際関係学の重要分野である安全保障に関し、リスクの観点がどのように取り入れられてきたかについて概説します。前半は、国際関係学での安全保障論の基本的な視点を学びます。次に、社会学の分野から生まれたリスク社会論について検証します。後半は、リスク評価の安全保障への当てはめとして、各安全保障のフィールド（拡大した安全保障）で、リスク論がどのような視点を提示しているかについて見ていきます。									
授業目標： ①安全保障に関する伝統的な脅威論とリスク論の違いを理解する。 ②安全保障の諸分野でどのようなリスクが議論されているのかを知る。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
2	国際関係学と安全保障：国際関係学と安全保障論の関係を理解します。安全保障とは何かについても触れます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
3	安全保障と脅威①：安全保障の要素である「脅威」について深く掘り下げてみます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
4	安全保障と脅威②：脅威を中心とした安全保障のモデルを概略していきます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
5	リスク社会論①：現代社会におけるリスクとは何かについて紹介します。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
6	リスク社会論②：リスクをどう管理するか。リスク・マネジメント論を概略します。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
7	安全保障への当てはめ：安全保障へのリスク論の当てはめの状況と実例を紹介します。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
8	ミニテスト：前半のまとめをします。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		テストと解説	
9	軍事的安全保障とリスク：現代における軍事安全保障でのリスクの内容を探っていきます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
10	国内政治要因とリスク：今日の国内政治でのリスクの内容を探っていきます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
11	経済的安全保障とリスク：今日の経済安全保障でのリスクの内容を探っていきます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
12	環境の安全保障とリスク：今日の環境安全保障でのリスクの内容を探っていきます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
13	社会的安全保障(移民)とリスク：今日の移民問題でのリスクの内容を探っていきます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
14	安全保障でのリスク論の限界：安全保障でのリスク論の限界について触れていきます。					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		講義40分 ディスカッション50分	
15	安全保障とリスク：まとめ					事前：指定教材準備 事後：講義内容確認		ディスカッション	
教本： 各回ハンドアウトを配ります。					参考文献： 適宜指示します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（25%）、定期試験（25%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： やや高度な議論になりますが、安全保障問題へ関心のある学生の参加を歓迎します。日本国内では他では学ぶことが難しい内容と思いますので、意欲のある皆さんは是非受講してみてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	イギリス文化研究A（English Study A）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	阿部 美恵								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： ロンドンを中心とした生活習慣、観光、社会制度、文学、映画などの側面からイギリスの全体像を概観する。併せて、内容理解や文法力や語彙の強化など英語力の向上を図る。									
授業目標： 多様性に富んだイギリスの文化を、歴史的、社会的、文化的なさまざまな視点から学ぶことによって、異なる文化を理解し、受容する態度を習得することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction					事前：シラバスを熟読する 事後：授業の復習をする		イギリスについての基本事項の解説	
2	Unit 1 Fish and Chips					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
3	Unit 2 The River Thames — 'Liquid History'					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
4	Unit 3 The Festival Season					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
5	Unit 4 Going to School					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
6	Unit 1～Unit 4 Review					事前：Unit 1～4の復習 事後：授業の復習をする		解説、Q&A	
7	Unit 5 Singing a Song in Liverpool					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
8	Unit 6 Lending a Hand					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
9	Unit 7 The Amazing Harry Potter					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
10	Unit 8 Flower of Scotland					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
11	Unit 5～Unit 8 Review					事前：Unit 5～8の復習 事後：授業の復習をする		解説、Q&A	
12	Unit 9 Inside the British Museum					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
13	Unit 10 Cats, Dogs and Urban Foxes					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
14	Unit 11 Princess Diana's Levacy					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、 練習問題 40分	
15	イギリス文化研究Aについての総復習					事前：Unit 1～11 の復習 事後：授業の復習をする		解説、Q&A	
教本： British Life Today: An Introduction（南雲堂）					参考文献： 授業中に適宜資料を配布する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50％）、課題等（20％）、定期試験（30％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 常に世界の出来事に関心を持ち、積極的に授業に参加してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									



開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	イギリス文化研究B（English Study B）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	阿部 美恵								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： ロンドンを中心とした生活習慣、観光、社会制度、文学、映画などの側面からイギリスの全体像を概観する。併せて、内容理解や文法力や語彙の強化など英語力の向上を図る。									
授業目標： 多様性に富んだイギリスの文化を、歴史的、社会的、文化的なさまざまな視点から学ぶことによって、異なる文化を理解し、受容する態度を習得することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
				◎			○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction					事前：シラバスを熟読する 事後：授業の復習をする		イギリスについての基本事項の解説	
2	Unit 12 The London Shopping Experience					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分	
3	Unit 13 Let's to Paris					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分	
4	Unit 14 How European are the British?					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分	
5	Unit 15 Cambridge — 800 Years Old					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分	
6	Unit 12～Unit 15 Review					事前：Unit 12～15を復習 事後：授業の復習をする		解説、Q&A	
7	Unit 16 A Journey to Wales					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分	
8	Unit 17 ‘Slumdog Millionaire’					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分	
9	Unit 18 Government in Britain					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分	
10	Unit 19 Green Issues					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分	
11	Unit 20 The London Olympics					事前：テキストの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分	
12	Unit 16～Unit 20 Review					事前：Unit 16～20を復習 事後：授業の復習をする		解説、Q&A	
13	A Journey to Scotland					事前：プリントの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分	
14	A Journey to Ireland					事前：プリントの予習をする 事後：授業の復習をする		英文講読 20分、解説 30分、練習問題 40分	
15	イギリス文化研究Bについての総復習					事前：Unit 12～20を復習 事後：授業の復習をする		解説、Q&A	
教本： British Life Today: An Introduction（南雲堂）									
参考文献： 授業中に適宜資料を配布する。									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50％）、課題等（20％）、定期試験（30％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 常に世界の出来事に関心を持ち、積極的に授業に参加してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	異文化共生論 A (Intercultural Understanding A)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	伊藤 幹彦								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本授業では、異文化共生理論、グローバリゼーション＝地球の縮小化、多文化化、相互依存、自文化中心主義、グローバルな見方、文化の定義、ジェンダーの問題、外国人という言葉、マイノリティとマジョリティ、多文化社会と社会統合、日本文化の価値観、日本の異文化交流史などについて説明する。									
授業目標： 授業のテーマは、世界と日本、異文化接触、異文化コミュニケーションと社会、異文化間教育とコミュニケーション教育、コミュニケーション能力などである。授業目標は、日本政府が現在、推進している異文化共生政策や地域社会における学習者と日本人住民との接触の状況を理解させることである。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	異文化共生論 A の目次の説明をする。自己紹介をする。口頭 Q & A をする。アンケートをする。				事前：異文化共生論 A の下読みをする。 事後：異文化共生論 A のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭 Q & A10分。アンケート10分。自己紹介30分。	
2	異文化共生理論(葛藤解決方略次元理論、異文化受容態度理論)の説明をする。口頭 Q & A をする。アンケートをする。課題をする。				事前：異文化共生理論の下読みをする。 事後：異文化共生理論のポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭 Q & A60分。アンケート10分。課題10分。	
3	グローバリゼーション(地球の縮小化、グローバル・イシュー)の説明をする。口頭 Q & A をする。アンケートをする。課題をする。				事前：グローバリゼーションの下読みをする。 事後：グローバリゼーションのポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭 Q & A60分。アンケート10分。課題10分。	
4	多文化化(多文化社会、多文化の台湾、グローバル社会)の説明をする。口頭 Q & A をする。アンケートをする。課題をする。				事前：多文化化の下読みをする。 事後：多文化化のポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭 Q & A60分。アンケート10分。課題10分。	
5	相互依存(社会変動、多文化共生)の説明をする。口頭 Q & A をする。アンケートをする。課題をする。				事前：相互依存の下読みをする。 事後：相互依存のポイントをノートに書く。			講義説明20分。小テスト60分。アンケート10分。	
6	自文化中心主義(同心円的なパースペクティブ、白人のまなざし)の説明をする。口頭 Q & A をする。課題をする。				事前：自文化中心主義の下読みをする。 事後：自文化中心主義のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭 Q & A10分。課題40分。	
7	グローバルな見方(多文化的パースペクティブ、グローバルなパースペクティブ)の説明をする。口頭 Q & A をする。課題をする。				事前：グローバルな見方の下読みをする。 事後：グローバルな見方のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭 Q & A10分。課題40分。	
8	文化の定義(ハイブリッド〈混成したもの〉、グローバリゼーション)の説明をする。口頭 Q & A をする。課題をする。				事前：文化の定義の下読みをする。 事後：文化の定義のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭 Q & A10分。課題40分。	
9	ジェンダーの問題(本質主義、構築主義)の説明をする。口頭 Q & A をする。課題をする。				事前：ジェンダーの問題の下読みをする。 事後：ジェンダーの問題のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭 Q & A10分。課題40分。	
10	外国人という言葉(白人性研究、日本人性)の説明をする。口頭 Q & A をする。ディスカッションをする。アンケートをする。				事前：外国人という言葉の下読みをする。 事後：外国人という言葉のポイントをノートに書く。			講義説明20分。ディスカッション60分。アンケート10分。	
11	マイノリティとマジョリティ(多文化社会、外国人の子供と日本の学校)の説明をする。口頭 Q & A をする。課題をする。				事前：マイノリティとマジョリティの下読みをする。 事後：マイノリティとマジョリティのポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭 Q & A10分。課題40分。	
12	多文化社会と社会統合(日本の中のマイノリティ、アメリカの事例)の説明をする。口頭 Q & A をする。課題をする。				事前：多文化社会と社会統合の下読みをする。 事後：多文化社会と社会統合のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭 Q & A10分。課題40分。	
13	日本文化の価値観(祖先崇拝、武士道、和の思想)の説明をする。口頭 Q & A をする。課題をする。				事前：日本文化の価値観の下読みをする。 事後：日本文化の価値観のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭 Q & A10分。課題40分。	
14	日本の異文化交流史(儒教・仏教の受容、キリシタンの受容、西欧文明の受容)の説明をする。口頭 Q & A をする。課題をする。				事前：日本の異文化交流史の下読みをする。 事後：日本の異文化交流史のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭 Q & A10分。課題40分。	
15	異文化共生論 A のまとめの説明をする。口頭 Q & A をする。アンケートをする。				事前：異文化共生論 A のまとめの下読みをする。 事後：異文化共生論 A のまとめのポイントをノートに書く。			講義説明70分。口頭 Q & A10分。アンケート10分。	
教本： 松尾知明、『多文化共生のためのテキストブック』、明石書店、2011年、¥2,640。					参考文献： 加賀美常美代(編著)、『多文化共生論——多様性理解のためのヒントとレッスン』、明石書店、2013年、¥2,640。				
成績評価の方法、評価基準：期末小論文（40%）、授業への寄与度や授業態度や小テストや課題などの平常点（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス：1. 異文化コミュニケーション論の知識（頭脳の知性）向上、2. 自己効力感（私はできるというプラス思考）向上、3. 人間力（力強く生きていく力、目標達成力）向上。毎回学生の皆さんに A4 の紙を配り、アンケートとして、質問、意見、感想を書いてもらう。学生の皆さんの質問は歓迎する。学習理論の自己効力感（self-efficacy、セルフ・エフィカシー）で「できるという信念があれば、必ずできるようになる」。私伊藤幹彦は自己効力感で学生の皆さんのやる気を引き出し、成績を高める。毎回学生の皆さんに A4 の紙を配り、アンケートとして、質問、意見、感想を書いてもらう。									
オフィスアワー：初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	異文化共生論 B（Intercultural Understanding B）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	伊藤 幹彦								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本授業では、グローバリゼーションの時代、世界を見るレンズ、南北問題、経済格差と貧困問題、環境問題、熱帯雨林の破壊、平和問題、平和な世界をめざして、国際協力と開発、国際協力を考える、日本人であること、日本社会の再構築、未来をつくるなどについて説明する。									
授業目標： 授業のテーマは、世界と日本、異文化接触、異文化コミュニケーションと社会、異文化間教育とコミュニケーション教育、コミュニケーション能力などである。授業目標は、多文化共生社会になりつつある日本の現状と学習者と地域社会との異文化接触の状況を理解させることである。 カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	異文化共生論Bの目次の説明をする。自己紹介をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。				事前：異文化共生論Bの下読みをする。 事後：異文化共生論Bのポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。アンケート10分。自己紹介30分。	
2	グローバリゼーションの時代(システムとしての地球規模化、政治経済文化のグローバリゼーション)の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。				事前：グローバリゼーションの下読みをする。 事後：グローバリゼーションのポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭Q&A60分。アンケート10分。課題10分。	
3	未来をつくる(多文化共生の台湾、多文化共生の日本)の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。				事前：未来の下読みをする。 事後：未来のポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭Q&A60分。アンケート10分。課題10分。	
4	南北問題(南南問題、21世紀に存在する奴隷、多国籍企業)の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。				事前：南北問題の下読みをする。 事後：南北問題のポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭Q&A60分。アンケート10分。課題10分。	
5	経済格差と貧困問題(経済格差の拡大、国際機関)の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。				事前：経済格差と貧困問題の下読みをする。 事後：経済格差と貧困問題のポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭Q&A60分。アンケート10分。課題10分。	
6	環境問題(地球温暖化、砂漠化、地球環境の悪化)の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。				事前：環境問題の下読みをする。 事後：環境問題のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。	
7	熱帯雨林の破壊(消える熱帯林、持続可能な開発)の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。				事前：熱帯雨林の破壊の下読みをする。 事後：熱帯雨林の破壊のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。	
8	平和問題(グローバリゼーション、戦争、テロ)の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。				事前：平和問題の下読みをする。 事後：平和問題のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。	
9	平和な世界をめざして(平和、積極的な平和、人権)の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。				事前：平和な世界をめざしての下読みをする。 事後：平和な世界をめざしてのポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。	
10	国際協力と開発(政府開発援助〈ODA〉、NGOによるボランティア、国際協力)の説明をする。ディスカッションをする。アンケートをする。				事前：国際協力と開発の下読みをする。 事後：国際協力と開発のポイントをノートに書く。			講義説明20分。ディスカッション60分。アンケート10分。	
11	国際協力を考える(青年海外協力隊、国境なき医師団)の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。				事前：国際協力の下読みをする。 事後：国際協力のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。	
12	日本人であること(日本の学校を脱構築、日本人性の脱構築)の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。				事前：日本人の下読みをする。 事後：日本人のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。	
13	日本社会の再構築(日本の学校を再構築、日本人性の再構築)の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。				事前：日本社会の下読みをする。 事後：日本社会のポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。	
14	世界を見るレンズ(教科書の中の人々、世界を捉える枠組み、グローバルとナショナル)の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。				事前：世界を見るレンズの下読みをする。 事後：世界を見るレンズのポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。	
15	異文化共生論Bのまとめの説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。				事前：異文化共生論Bのまとめの準備をする。 事後：異文化共生論Bのまとめのポイントをノートに書く。			講義説明70分。口頭Q&A10分。アンケート10分。	
教本： 松尾知明、『「移民時代」の多文化共生論—想像力・創造力を育む14のレッスン』、明石書店、2020年、¥2,420。					参考文献： 多文化共生キーワード事典編集委員会編、『多文化共生キーワード事典改訂版』、明石書店、¥2,200。				
成績評価の方法、評価基準：期末小論文（40%）、授業への寄与度や授業態度や課題などの平常点（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス：1. 異文化コミュニケーション論の知識（頭脳の知性）向上、2. 自己効力感（私はできるというプラス思考）向上、3. 人間力（力強く生きていく力、目標達成力）向上。頭脳の知性（異文化コミュニケーション論の専門的知識）と感情の知性（人格形成）を学ばせ、人間力（力強く生きていく力、目標達成力）を育成する。学習理論の自己効力感（self-efficacy、セルフ・エフィカシー）で「できるという信念があれば、必ずできるようになる」。学生の皆さんの質問は歓迎する。									
オフィスアワー：初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授業科目(英文)	異文化コミュニケーション論Ⅰ（Intercultural CommunicationⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	伊藤 幹彦								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本授業では、異文化コミュニケーションの定義、異文化コミュニケーション論の基礎、異文化コミュニケーション理論、自己とアイデンティティ、異文化適応曲線、成長過程としての異文化適応、異文化コミュニケーションの障壁、コミュニケーション・スタイル、国際文化交流、国際協力などについて説明する。異文化コミュニケーションは、文化的背景の異なる人々との間で起こるコミュニケーションであると定義できる。									
授業目標： 授業のテーマは、世界と日本、異文化接触、異文化コミュニケーションと社会、異文化間教育とコミュニケーション教育、コミュニケーション能力などである。授業目標は、異なる文化的背景を持つ人々とコミュニケーションを行うための異文化コミュニケーションの理論と実践について、理解させることである。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			○				◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）				授業形態	
1	異文化コミュニケーション論Ⅰの目次の説明をする。自己紹介をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：異文化コミュニケーション論Ⅰの下読みをする。 事後：異文化コミュニケーション論Ⅰのポイントをノートに書く。				講義説明40分。口頭Q&A10分。アンケート10分。自己紹介30分。	
2	異文化コミュニケーションの定義(平和構築、構造的暴力論、ナショナリズム)の説明をする。アンケートをする。課題をする。			事前：異文化コミュニケーションの定義の下読みをする。 事後：異文化コミュニケーションの定義のポイントをノートに書く。				講義説明10分。口頭Q&A60分。アンケート10分。課題10分。	
3	日本の思想(仏教思想、神道思想、キリスト教思想)の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。			事前：日本の思想の下読みをする。 事後：日本の思想のポイントをノートに書く。				講義説明10分。口頭Q&A60分。アンケート10分。課題10分。	
4	多民族国家台湾(台湾の民族、台湾の文化、台湾の歴史)の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。			事前：多民族国家台湾の下読みをする。 事後：多民族国家台湾のポイントをノートに書く。				講義説明10分。口頭Q&A60分。アンケート10分。課題10分。	
5	台湾の同化主義(教育勸諭、同化教育、皇民化教育)の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。			事前：台湾の同化主義の下読みをする。 事後：台湾の同化主義のポイントをノートに書く。				講義説明10分。口頭Q&A60分。アンケート10分。課題10分。	
6	異文化コミュニケーション論の基礎(文化の定義、三層構造、二層構造)の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：異文化コミュニケーションの基礎の下読みをする。 事後：異文化コミュニケーションの基礎のポイントをノートに書く。				講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。	
7	異文化コミュニケーション理論(異文化コミュニケーション・モデル)の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：異文化コミュニケーション理論の下読みをする。 事後：異文化コミュニケーション理論のポイントをノートに書く。				講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。	
8	自己とアイデンティティ(自己概念、社会・文化的アイデンティティ、国民アイデンティティ)の説明をする。課題をする。			事前：自己とアイデンティティの下読みをする。 事後：自己とアイデンティティのポイントをノートに書く。				講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。	
9	異文化適応曲線(カルチャーショック、逆カルチャーショック、U曲線、W曲線)の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：異文化適応曲線の下読みをする。 事後：異文化適応曲線のポイントをノートに書く。				講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。	
10	成長過程としての異文化適応(否定段階、防衛段階、矮小化段階、受容段階、適応段階、統合段階)の説明をする。ディスカッションをする。			事前：成長過程としての異文化適応の下読みをする。 事後：成長過程としての異文化適応のポイントをノートに書く。				講義説明20分。ディスカッション60分。アンケート10分。	
11	異文化コミュニケーションの障壁(ステレオタイプ、偏見、差別)の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：異文化コミュニケーションの障壁の下読みをする。 事後：異文化コミュニケーションの障壁のポイントをノートに書く。				講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。	
12	コミュニケーション・スタイル(自己主張、議論、フォーマル、シャイネス、自己開示)の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：コミュニケーション・スタイルの下読みをする。 事後：コミュニケーション・スタイルのポイントをノートに書く。				講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。	
13	国際文化交流(二つの世界大戦、戦後の復興、経済大国へ、バブル経済崩壊以後)の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：国際文化交流の下読みをする。 事後：国際文化交流のポイントをノートに書く。				講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。	
14	国際協力(国際協力の形態、異文化間の基本的問題、認識の違い)の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。			事前：国際協力の下読みをする。 事後：国際協力のポイントをノートに書く。				講義説明40分。口頭Q&A10分。課題40分。	
15	異文化コミュニケーション論Ⅰのまとめの説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。			事前：異文化コミュニケーション論Ⅰのまとめの下読みをする。 事後：異文化コミュニケーション論Ⅰのまとめのポイントをノートに書く。				講義説明70分。口頭Q&A10分。アンケート10分。	
教本： 石井敏、久米昭元、長谷川典子、桜木俊行、石黒武人、『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション——多文化共生と平和構築に向けて』、有斐閣、2013年、¥2,200。					参考文献： 石井敏、久米昭元(編)、『異文化コミュニケーション事典』、春風社、2013年、¥7,600。				
成績評価の方法、評価基準：期末小論文（40%）、授業への寄与度や授業態度や課題などの平常点（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス：1. 異文化コミュニケーション論の知識（頭脳の知性）向上、2. 自己効力感（私はできるというプラス思考）向上、3. 人間力（力強く生きていく力、目標達成力）向上。学生の皆さんにA4の紙を配り、アンケートとして、質問、意見、感想を書いてもらい、翌週重要な質問や意見や感想は紹介する。学生の皆さんの質問は歓迎する。頭脳の知性（異文化コミュニケーション論の専門的知識）と感情の知性（人格形成）を学ばせ、人間力（力強く生きていく力、目標達成力）を育成する。									
オフィスアワー：初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	異文化コミュニケーション論Ⅱ（Intercultural Communication Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	伊藤 幹彦								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本授業では、異文化相互理解、異文化コミュニケーション能力、異文化が共生できる社会、異文化コミュニケーションの諸問題、言語メッセージと記号、非言語メッセージ、対人コミュニケーション、国家レベルの異文化接触、多文化社会日本、文化摩擦の諸側面、異文化理解教育、海外留学、外国人留学生などについて説明する。									
授業目標： 授業のテーマは、世界と日本、異文化接触、異文化コミュニケーションと社会、異文化間教育とコミュニケーション教育、コミュニケーション能力などである。授業目標は、異なる文化的背景を持つ人々とコミュニケーションを行うためのコミュニケーションの理論について理解させることである。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			○				◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	異文化コミュニケーション論Ⅱの目次の説明をする。自己紹介をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。				事前：異文化コミュニケーション論Ⅱの下読みをする。 事後：異文化コミュニケーション論Ⅱのポイントをノートに書く。			講義説明40分。口頭Q&A10分。アンケート10分。自己紹介30分。	
2	異文化相互理解（異文化理解政策、異文化理解のコミュニケーション過程、異文化の台湾）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。				事前：異文化相互理解の下読みをする。 事後：異文化相互理解のポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭Q&A60分。アンケート10分。課題10分。	
3	異文化コミュニケーション能力（効果性と適切性、個人的・文化的アイデンティティ、性格的な要素）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。				事前：異文化コミュニケーション能力の下読みをする。 事後：異文化コミュニケーション能力のポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭Q&A60分。アンケート10分。課題10分。	
4	異文化が共生できる社会（外国人労働者問題、共生の現実、受容・排除の二元論）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。				事前：異文化が共生できる社会の下読みをする。 事後：異文化が共生できる社会のポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭Q&A60分。アンケート10分。課題10分。	
5	異文化コミュニケーションの諸問題（異文化、文化、コミュニケーション）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。課題をする。				事前：異文化コミュニケーションの諸問題の下読みをする。 事後：異文化コミュニケーションの諸問題のポイントをノートに書く。			講義説明10分。口頭Q&A60分。アンケート10分。課題10分。	
6	言語メッセージと記号（記号からなる言語メッセージ、言語メッセージの機能、言語メッセージと文化）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。				事前：言語メッセージと記号の下読みをする。 事後：言語メッセージと記号のポイントをノートに書く。			講義説明40分。課題40分。口頭Q&A10分。	
7	非言語メッセージ（パラ言語、非言語メッセージの重要性、非言語メッセージの普遍性）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。				事前：非言語メッセージの下読みをする。 事後：非言語メッセージのポイントをノートに書く。			講義説明40分。課題40分。口頭Q&A10分。	
8	対人コミュニケーション（対人コミュニケーションの大切さ、対人関係の発展の過程、人間関係の特徴）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。				事前：対人コミュニケーションの下読みをする。 事後：対人コミュニケーションのポイントをノートに書く。			講義説明40分。課題40分。口頭Q&A10分。	
9	国家レベルの異文化接触（異文化コミュニケーションと外交、日米交渉、国家・民族・異文化コミュニケーション）の説明をする。課題をする。				事前：国家レベルの異文化接触の下読みをする。 事後：国家レベルの異文化接触のポイントをノートに書く。			講義説明40分。課題40分。口頭Q&A10分。	
10	多文化社会日本（アイヌ、琉球王国、在日韓国・朝鮮人、同化主義、多文化主義）の説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。ディスカッションをする。				事前：多文化社会日本の下読みをする。 事後：多文化社会日本のポイントをノートに書く。			講義説明20分。ディスカッション60分。アンケート10分。	
11	文化摩擦の諸側面（ステレオタイプ、文化摩擦と経済摩擦、歴史観と文化摩擦、国民性と文化摩擦）の説明をする。課題をする。				事前：文化摩擦の諸側面の下読みをする。 事後：文化摩擦の諸側面のポイントをノートに書く。			講義説明40分。課題40分。口頭Q&A10分。	
12	異文化理解教育（近代の国民国家、ユネスコの国際理解教育、国際意識の教育）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。				事前：異文化理解教育の下読みをする。 事後：異文化理解教育のポイントをノートに書く。			講義説明40分。課題40分。口頭Q&A10分。	
13	海外留学（海外留学の多様化、異文化への適応問題、異文化カウンセリング）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。				事前：海外留学の下読みをする。 事後：海外留学のポイントをノートに書く。			講義説明40分。課題40分。口頭Q&A10分。	
14	外国人留学生（留学生10万人計画、留学生の問題、相互理解と障壁、留学生の異文化適応）の説明をする。口頭Q&Aをする。課題をする。				事前：外国人留学生の下読みをする。 事後：外国人留学生のポイントをノートに書く。			講義説明40分。課題40分。口頭Q&A10分。	
15	異文化コミュニケーション論Ⅱのまとめの説明をする。口頭Q&Aをする。アンケートをする。				事前：異文化コミュニケーション論Ⅱのまとめの準備をする。 事後：異文化コミュニケーション論Ⅱのまとめのポイントをノートに書く。			講義説明70分。口頭Q&A10分。アンケート10分。	
教本： 石井敏、久米昭元、遠山淳、松本茂、平井一弘、御堂岡潔、『異文化コミュニケーション・ハンドブック——基礎知識から応用・実践まで』、有斐閣、1997年。					参考文献： 久米昭元、長谷川典子、『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション——誤解・失敗・すれ違い』、有斐閣、2007年。				
成績評価の方法、評価基準：期末小論文（40%）、授業への寄与度や授業態度や課題などの平常点（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス：異文化コミュニケーション論の授業を通じて、君の異文化相互理解力を高め、異文化共生の知識を実践に生かし、多文化社会日本の中で、君の人間関係をよくしていくほうがいい。本授業に参加して、言語メッセージと非言語メッセージを理解し、異なる文化的背景を持つ人々とコミュニケーションを行うための異文化コミュニケーション能力（1．異文化コミュニケーション論の知識（頭脳の知性）向上、2．自己効力感（私はできるというプラス思考）向上、3．人間力（力強く生きていく力、目標達成力）向上）を高めていってほしい。									
オフィスアワー：初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	異文化論 A（Cross Culture Theory A）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川添 裕子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	高校レベルの日本史、世界史の知識。Google Classroom 利用。							
授業概要： 異文化とは外国の文化だけを指すわけではありません。日本社会を対象に異文化の視点について学びます。ディベート、ディスカッション、グループワークを通して、他の受講生と意見の交換・共有をする。毎回の授業終了前に小テストを行い、理解度について確認し、次の回の授業冒頭で補足説明を行う。									
授業目標： 1. 異文化の視点で自文化を捉えることができる。 2. 異文化の視点を日常生活、具体的な実践に応用できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1・2	視点としての異文化：カレンダーから多様な文化の共存の可能性について学ぶ。					事前：高校世界史を振り返る 事後：復習		講義 60分、ディベート 20分、小テスト 10分	
3	異文化～自文化：日本の在留外国人について学ぶ。神奈川県が多文化共生策について考える。					事前：外国に住むこと 事後：復習		講義 60分、ディベート 20分、小テスト 10分	
4	先住民：世界の「先住民族」をめぐる動きを概観した後、日本における先住民アイヌの人々について学ぶ。					事前：記事、ニュース収集 事後：復習		講義 60分、ディベート 20分、小テスト 10分	
5	宗教：キリスト教拡大以前と以後、「クリスマス」の展開を例に、古い文化的要素と新しい文化的要素の混合について学ぶ。					事前：クリスマス経験 事後：復習		講義 60分、ディベート 20分、小テスト 10分	
6	宗教：イスラームについて、食についての「ハラール」（許されていること、もの）規制について学ぶ。					事前：宗教のイメージ 事後：復習		講義 60分、ディベート 20分、小テスト 10分	
7	異文化としての日本：捕鯨文化を例に、異文化としての日本について学ぶ。					事前：食のイメージ 事後：復習		講義 60分、ディベート 20分、小テスト 10分	
8	映像授業					事前：関連事項検索 事後：映像資料復習		視聴 60分、グループワーク 20分、記述 10分	
9	ろう文化：聴覚障がいがあることを手話言語によってコミュニケーションする文化として学ぶ。					事前：バリアフリー経験 事後：復習		講義 60分、ディベート 20分、小テスト 10分	
9	触文化：視覚障がいがあることを、触る文化と見る文化という視点から捉え直す。					事前：バリアフリー経験 事後：復習		講義 60分、ディベート 20分、小テスト 10分	
10	タトゥー：身体を文化の視点から捉え、タトゥー/イレズミについて学ぶ。					事前：タトゥーのイメージ 事後：復習		講義 60分、ディベート 20分、小テスト 10分	
11	美容整形：美容整形を切り口に日本社会と韓国社会について比較検討する。					事前：整形のイメージ 事後：復習		講義 60分、ディベート 20分、小テスト 10分	
12	企業文化：ビジネスへの文化の視点の導入について、その歴史と現在について学ぶ。					事前：ブランドイメージ 事後：復習		講義 60分、ディベート 20分、小テスト 10分	
13	まとめ：授業全体を振り返り、異文化の視点についての理解を深める。					事前：ノート整理 事後：テスト準備		講義 60分、ディベート 20分、記述10分	
14・15	最終テストを受ける。テスト結果、今後の学習に向けた提案を行う。					事前：テスト準備 事後：振り返り		講義 30分、テスト 60分	
教本： 参考文献： そのつと紹介する。									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、最終テスト（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 各種情報や様々な情報を批判的に読み解く力をつけ、自らの思考を展開できるトレーニングをしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	異文化論B（Cross Culture Theory B）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川添 裕子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	高校レベルの地理、世界史の知識。Google Classroom 利用。							
授業概要： 本授業は、異文化理解に必要な視点、概念、理論として、オリエンタリズム批判、身体技法、グローバリズム、サブカルチャーについて学ぶ。ディベート、ディスカッション、グループワークを通して、他の受講生と意見の交換・共有をする。毎回の授業終了前に小テストを行い、理解度について確認し、次の回の授業冒頭で補足説明を行う。									
授業目標： 1. 異文化を理解に必要な視点、概念、理論を理解する。 2. 異文化の視点を、身の周りの具体的な現象の解釈に応用できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1・2	中東世界：文明の交差点としてのオリент（東洋）について学び、現在メディアで報道されるイメージとの違いを理解する。					事前：高校世界史を振り返る 事後：復習		講義 60分、ディベート 20分、小テスト 10分	
3	アラビアンナイトの成立：「アラビアンナイト」の形成過程について学ぶ。					事前：ディズニー映画 事後：復習		講義 60分、ディベート 20分、小テスト 10分	
4	アラビアンナイトの再評価：18世紀ヨーロッパでの翻訳本人気について学ぶ。					事前：イメージ 事後：復習		講義 60分、ディベート 20分、小テスト 10分	
5	翻訳の問題：超訳，誤訳について学ぶ。					事前：翻訳経験 事後：復習		講義 60分、ディベート 20分、小テスト 10分	
6	オリエンタリズム批評：エドワード・サイードの「オリエンタリズム」批判の論点を学ぶ。オリエンタリズム					事前：中東のイメージ 事後：復習		講義 60分、ディベート 20分、小テスト 10分	
7	映像授業					事前：関連事項検索 事後：映像資料復習		視聴 60分、グループワーク 20分、記述 10分	
8	グローバリズム、ローカリズム、グローカリズム：身近な商品やサービスから学ぶ。					事前：ファストフード経験 事後：復習		講義 60分、ディベート 20分、小テスト 10分	
9	ヴェールの着用、ひげを例に、身体の文化的側面、衣装の記号論について学ぶ。					事前：ヴェール，ひげ 事後：復習		講義 60分、ディベート 20分、小テスト 10分	
10	身体技法：身体の使い方、あり方の文化的多様性を、「身体技法」、「ブロックセックス」から学ぶ。					事前：クセの意識化 事後：復習		講義 60分、ディベート 20分、小テスト 10分	
11	サブカルチャー：映画、マンガ、アニメの展開について学ぶ。					事前：マンガ，アニメ 事後：復習		講義 60分、ディベート 20分、小テスト 10分	
12	物語と文化：アラビアンナイトの今後の展開について考える。					事前：アラビアンナイト読解 事後：復習		講義 60分、ディベート 20分、小テスト 10分	
13	まとめ：授業全体を振り返り、異文化の視点についての理解を深める。					事前：ノート整理 事後：テスト準備		講義 60分、ディベート 20分、記述 10分	
14・15	授業全体の理解度を最終テストで確認する。テスト結果、今後の学習に向けた提案を行う。					事前：テスト準備 事後：振り返り		講義 30分，テスト 60分	
教本：参考文獻：そのつと紹介する。									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、最終テスト（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 各種情報や様々な現象を批判的に読み解く力をつけ、自らの思考を展開できるトレーニングをしてください。									
オフィスアワー： 紹介講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	インターンシップ (Internship)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	鈴木 秀顕								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	企業等が行うインターンシップの参加必須。							
授業概要： 実習先の受け入れ人数に合わせて、履修人数を制限することがある。授業で、企業での業務実施の前に必要な知識やマナー、企業研究ならびに提出書類の書き方を習得する。就職活動と同じように自分の希望する業種や企業選びなどを行う。									
授業目標： 初回の授業で社会人になるために必要なことを学び、7月までにインターンシップを実施する。実体験することにより、目標を持つことの大切さ、それを達成するための過程、確認と検証、新たな目標の作成を学び、就職活動に役立てる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	インターンシップ履修オリエンテーション				事前： 事後：配布資料の見直し			講義	
2	働くってどんなこと？ グループワークにてディスカッションを行いまとめた内容を発表。				事前：精読（9-26） 事後：働く意味を理解した上で志について事前準備			講義・演習	
3	志を考える（発表）				事前：志の準備 事後：見直し			講義・演習	
4	インターンシップって何？ グループワークにてディスカッションを行いまとめた内容を発表。				事前：精読（39-52） 事後：状況を調べる			講義	
5	なぜ企業はインターンを受け入れるのか？ インターンシップ状況を調べ、発表する。				事前：精読（53-68） 事後：状況を調べる			講義	
6	自分の希望と時期を考える				事前：希望企業等準備 事後：希望を再考する			演習	
7	業界研究・企業研究（発表）				事前：希望企業等準備 事後：調査応募準備			演習	
8	企業人としての心構え 面接練習				事前：面接準備 事後：振り返り			演習	
9	社会人になるためのマナー				事前：精読（87-104） 事後：振り返り			講義・演習	
10	提出書類の作成（履歴書）				事前：履歴書準備 事後：見直し			講義・演習	
11	提出書類の作成（自己紹介発表）				事前：資料準備 事後：振り返り			講義・演習	
12	インターンシップ計画、実施				事前：研修の準備 事後：研修報告書			演習	
13	インターンシップ計画、実施				事前：研修の準備 事後：研修報告書			演習	
14	インターンシップ計画、実施				事前：研修の準備 事後：研修報告書			演習	
15	インターンシップ報告（発表）				事前：研修報告書の仕上げ 事後：報告会の反省			演習	
教本： ①『はじめてのインターンシップ』（アルテスパブリッシング） ②『思考法図鑑』（翔泳社）					参考文献： ①『内定獲得のメソッド インターンシップ』（マイナビ） ②『過去問で鍛える地頭力外資系コンサルの面接試験問題』（東洋経済新報社） ③『きみはスゴイぜ！ 一生使える「自信」をつくる本』（飛鳥新社）				
成績評価の方法、評価基準： 実習（60%）、事前事後の活動（40%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： プレ社会人としてのモラルを求めるので、1回目は必ず出席すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	AI 実践プログラミング (Practical AI Programming)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	山本 美紀								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	ノートパソコンを用意すること。							
授業概要： この授業では、人工知能（AI：Artificial Intelligence）の歴史的背景を踏まえ、近年、AI プログラミングの開発で最も広く使用されている Python 言語の基礎知識を学び、AI で代表される機械学習モデルの構築手法を習得します。また、実践的なプログラミングの体験を通して、プログラミング的思考力の向上を目指します。									
授業目標： ① AI(人工知能)と機械学習の種類について説明できる。 ② Python を用いて基本的なアルゴリズムのプログラミングができる。 ③ 機械学習の仕組みを理解し、問題解決のためのプログラミングができる。 ④ プログラムで、データベースを操作することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	授業の概要と目的、進め方、評価方法等について説明する。 AI(人工知能)と機械学習、機械学習の種類について学ぶ。				事前：シラバスを読む 事後：ミニッツペーパー			アイスブレイク（10分） 講義（80分）	
2	Python とはどんな言語か、Python の開発環境を構築する。 サンプルプログラムを作成し、実行する。				事前：Python と開発環境について下調べ 事後：ミニッツペーパー			講義（45分） 演習（45分）	
3	Python の基礎(1)変数とデータ型について学ぶ。				事前：Chapter 3を読む 事後：演習問題			講義（45分） 演習（45分）	
4	Python の基礎(2)コレクションについて学ぶ。				事前：Chapter 4を読む 事後：演習問題			講義（45分） 演習（45分）	
5	Python の基礎(3)条件分岐／繰り返しについて学ぶ。				事前：Chapter 5を読む 事後：演習問題			講義（45分） 演習（45分）	
6	Python の基礎(4)関数について学ぶ。				事前：Chapter 6を読む 事後：演習問題			講義（45分） 演習（45分）	
7	Python の基礎(5)オブジェクトについて学ぶ。				事前：Chapter 7を読む 事後：演習問題			講義（45分） 演習（45分）	
8	Python の基礎(6)モジュールとパッケージについて学ぶ。				事前：Chapter 10を読む 事後：演習問題			講義・演習（60分） 小テスト（30分）	
9	Python の基礎(7)ファイルの読み書きについて学ぶ。				事前：Chapter 11を読む 事後：演習問題			講義（45分） 演習（45分）	
10	Python による機械学習(1)機械学習の準備・手順について学ぶ。				事前：Chapter 13の1を読む 事後：期末課題			講義（45分） 演習（45分）	
11	Python による機械学習(2)教師あり学習について学ぶ。				事前：配布資料を読む 事後：期末課題			講義（30分） 演習（60分）	
12	Python による機械学習(3)教師なし学習について学ぶ。				事前：配布資料を読む 事後：期末課題			講義（30分） 演習（60分）	
13	Python による機械学習(4)データベースの操作について学ぶ。				事前：Chapter 15の1を読む 事後：期末課題			講義（30分） 演習（60分）	
14	Python による機械学習(5)Web プログラミングについて学ぶ。				事前：Chapter15の2を読む 事後：期末課題を完成させ、期限までに提出する			講義（30分） 演習（60分）	
15	まとめと学びの振り返りを行う。 注目されている AI の技術についてトピックを紹介する。				事前：学習ポートフォリオを整理する 事後：学びの振り返りを行う			講義（60分） グループワーク（30分）	
教本： 松浦健一郎・司ゆき『Python 〔完全〕入門』SBクリエイティブ ISBN：978-4-815607647					参考文献： 授業内で参考文献、Web サイト等を紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 学習ポートフォリオ（ミニッツペーパー、演習問題、振り返り等）：60％、小テスト：10％、期末課題：30％で総合評価する。 ※学習ポートフォリオは、ルーブリック（評価基準）による自己評価を含む。									
学生へのアドバイス： プログラミング上達のコツは、完成を期待してバグを見つけ、バグを修正すること（対話）を楽しむことです。相手はコンピュータなので、コンピュータが理解して正しく動作するプログラムを書くことを心がけましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	AI とビジネスモデル（AI and Business Model）						科目分類	専 門 科 目	
担 当 教 員	井 上 明 也								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	ノートパソコンを用意すること							
授業概要： 近年、インターネット、モバイル環境などのICT、ビッグデータ、AIなどのデジタル技術の進化により、ビジネスにおいて収益を上げる仕組みは、多様化、変化が加速している。本講義では、AIを中心とした最新の技術動向の概要を学ぶとともに、ビジネスの構造と収益を向上させる仕組みの観点から、ビジネスを分析する基礎技術とその活用法を、講義、演習、プレゼンテーション、反転授業により学ぶ。									
授業目標： AIを中心とした技術の進化がビジネスに与える影響を考慮して、ビジネスの構造を理解し、収益を向上させる仕組みの作り方を理解することを目的とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			○				◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ビジネスモデル理解の基礎Ⅰ シラバスの説明とロジカルシンキングについて学ぶ					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義	
2	ビジネスモデル理解の基礎Ⅱ ビジネス分析のためのフレームワークについて学ぶ					事前：前回の資料を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分	
3	ビジネスモデル理解の基礎Ⅲ 戦略と戦略策定のフレームワークについて学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分	
4	ビジネスに影響を与える技術動向 DX、AIの概要とビジネスへの影響について学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分	
5	ビジネスモデルとは ビジネスモデルの基礎知識について学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：講義内容と課題を復習する		講義60分 演習30分	
6	ビジネスモデルの紹介1 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義20分 プレゼン70分	
7	ビジネスモデルの紹介2 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義20分 プレゼン70分	
8	ビジネスモデルの紹介3 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義20分 プレゼン70分	
9	ビジネスモデルの紹介4 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義20分 プレゼン70分	
10	ビジネスモデルの紹介5 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義20分 プレゼン70分	
11	ビジネスモデルの紹介6 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義20分 プレゼン70分	
12	ビジネスモデルの紹介7 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義20分 プレゼン70分	
13	ビジネスモデルの紹介8 指定されたビジネスモデルの説明資料の作成とプレゼン					事前：指定モデルの調査と資料作成 事後：紹介されたモデルを復習する		講義20分 プレゼン70分	
14	ビジネスモデルの作り方 ビジネスモデルの基本的な考え方と作成方法について学ぶ					事前：提案するビジネス領域の調査 事後：提案モデルを検討する		講義60分 演習30分	
15	最終課題の発表とまとめ 各自の最終課題の検討結果のプレゼンテーションとまとめ					事前：プレゼン資料を作成する 事後：これまでの資料を復習する		講義10分 プレゼン80分	
教本： この一冊で全部わかる ビジネスモデル 基本・成功パターン・作り方が一気に学べる、¥1,760									
参考文献： 講義内で指示する									
成績評価の方法、評価基準： レポート課題・プレゼンテーション等（100％）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	AI 入門（Introduction to Artificial Intelligence）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	井上 明也								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	ノートパソコンを用意すること							
授業概要： 本講義では、人工知能の全体像とその基礎技術、及び生成 AI の概要とその活用法を理解した上で、どのような対象に活用され、またビジネス領域にどのような影響を与えるかを、講義、演習、グループディスカッション、プレゼンテーションを通じて理解する。									
授業目標： 人工知能の全体像とその基礎技術、及び生成 AI の概要とその活用法を理解することにより、現実の課題への活用法とその効果を理解できる能力、新たな対象やビジネス領域への適用の可能性を検討できる能力の修得を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	シラバスの説明、人工知能 AI 概説 この授業の目標、実施方法、内容等について説明する					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義	
2	人工知能の歴史と論理的な思考法：人工知能の歴史と人工知能の技術を理解する上で必要となる論理的な思考法について					事前：前回の資料を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分	
3	AI 技術 1 機械学習の分類、基本的な考え方、評価指標等について学ぶ					事前：前回の資料を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分	
4	AI 技術 2 予測を目的とした機械学習の手法と適用事例について学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分	
5	AI 技術 3 分類を目的とした機械学習の手法と適用事例について学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分	
6	AI 技術 4：ニューラルネットワーク&ディープラーニング、及び教師なし機械学習の手法と適用事例について学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分	
7	AI 技術 5 AI ツールにより機械学習による判別モデルを作成、評価する					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分	
8	AI 技術 6 AI ツールにより機械学習による判別モデルを作成、評価する					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分	
9	AI 技術 7 生成 AI の歴史と自然言語処理と関連技術の進化について学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義60分 演習30分	
10	人工知能技術の活用 1 生成 AI（ChatGPT と画像生成 AI）の活用法を学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分	
11	人工知能技術の活用 2 生成 AI（ChatGPT と画像生成 AI）の活用法を学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分 演習60分	
12	人工知能技術の活用 3 生成 AI（ChatGPT と画像生成 AI）の活用法を学ぶ					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義30分、 ディスカッション60分	
13	AI 戦略の取り組み概要：国内における AI 技術への取り組み概要と AI 利活用ガイドラインについて学ぶ					事前：プレゼン資料を作成する 事後：資料と課題を復習する		プレゼン30分 ディスカッション60分	
14	人工知能のビジネス活用事例と課題 1：AI 技術が実装された対象のインパクトとリスク、課題について議論し、まとめる					事前：プレゼン資料を作成する 事後：資料と課題を復習する		プレゼン30分 ディスカッション60分	
15	人工知能のビジネス活用事例と課題 2：各自が選定したビジネス活用事例について検討した結果をプレゼンする					事前：プレゼン資料を作成する 事後：これまでの資料を復習する		講義10分 プレゼン80分	
教本： 指定しない					参考文献： 講義内で指示する				
成績評価の方法、評価基準： 演習課題・レポート等（100%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業に必ず出席する。疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	AI プログラミング I （AI Programming I）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	山本 美紀								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	ノートパソコンを用意すること。							
授業概要： この授業では、人工知能（AI：Artificial Intelligence）の歴史的背景を踏まえ、近年、AI プログラミングの開発で最も広く使用されている Python 言語の基礎知識を学び、AI で代表される機械学習モデルの構築手法を習得します。また、実践的なプログラミングの体験を通して、プログラミング的思考力の向上を目指します。									
授業目標： ① AI(人工知能)と機械学習の種類について説明できる。 ② Python を用いて基本的なアルゴリズムのプログラミングができる。 ③ 機械学習の仕組みを理解し、問題解決のためのプログラミングができる。 ④ プログラムで、データベースを操作することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	授業の概要と目的、進め方、評価方法等について説明する。 AI(人工知能)と機械学習、機械学習の種類について学ぶ。				事前：シラバスを読む 事後：ミニッツペーパー			アイスブレイク（10分） 講義（80分）	
2	Python とはどんな言語か、Python の開発環境を構築する。 サンプルプログラムを作成し、実行する。				事前：Python と開発環境について下調べ 事後：ミニッツペーパー			講義（45分） 演習（45分）	
3	Python の基礎(1)変数とデータ型について学ぶ。				事前：Chapter 3を読む 事後：演習問題			講義（45分） 演習（45分）	
4	Python の基礎(2)コレクションについて学ぶ。				事前：Chapter 4を読む 事後：演習問題			講義（45分） 演習（45分）	
5	Python の基礎(3)条件分岐／繰り返しについて学ぶ。				事前：Chapter 5を読む 事後：演習問題			講義（45分） 演習（45分）	
6	Python の基礎(4)関数について学ぶ。				事前：Chapter 6を読む 事後：演習問題			講義（45分） 演習（45分）	
7	Python の基礎(5)オブジェクトについて学ぶ。				事前：Chapter 7を読む 事後：演習問題			講義（45分） 演習（45分）	
8	Python の基礎(6)モジュールとパッケージについて学ぶ。				事前：Chapter 10を読む 事後：演習問題			講義・演習（60分） 小テスト（30分）	
9	Python の基礎(7)ファイルの読み書きについて学ぶ。				事前：Chapter 11を読む 事後：演習問題			講義（45分） 演習（45分）	
10	Python による機械学習(1)機械学習の準備・手順について学ぶ。				事前：Chapter 13の 1 を読む 事後：期末課題			講義（45分） 演習（45分）	
11	Python による機械学習(2)教師あり学習について学ぶ。				事前：配布資料を読む 事後：期末課題			講義（30分） 演習（60分）	
12	Python による機械学習(3)教師なし学習について学ぶ。				事前：配布資料を読む 事後：期末課題			講義（30分） 演習（60分）	
13	Python による機械学習(4)データベースの操作について学ぶ。				事前：Chapter 15の 1 を読む 事後：期末課題			講義（30分） 演習（60分）	
14	Python による機械学習(5)Web プログラミングについて学ぶ。				事前：Chapter15の 2 を読む 事後：期末課題を完成させ、期限までに提出する			講義（30分） 演習（60分）	
15	まとめと学びの振り返りを行う。 注目されている AI の技術についてトピックを紹介する。				事前：学習ポートフォリオを整理する 事後：学びの振り返りを行う			講義（60分） グループワーク（30分）	
教本： 松浦健一郎・司ゆき『Python 〔完全〕入門』SBクリエイティブ ISBN：978-4-815607647					参考文献： 授業内で参考文献、Web サイト等を紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 学習ポートフォリオ（ミニッツペーパー、演習問題、振り返り等）：60%、小テスト：10%、期末課題：30%で総合評価する。 ※学習ポートフォリオは、ルーブリック（評価基準）による自己評価を含む。									
学生へのアドバイス： プログラミング上達のコツは、完成を期待してバグを見つけ、バグを修正すること（対話）を楽しむことです。相手はコンピュータなので、コンピュータが理解して正しく動作するプログラムを書くことを心がけましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	AI プログラミングⅡ（AI ProgrammingⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	金 宰 郁								
履 修 条 件	前提科目	AI入門、AIプログラミングⅠ							
	そ の 他	ノートパソコンを用意すること。							
授業概要： この授業では、AIプログラミング技術の習得に必要な知識や概念について、例題を用いながら説明する。その後、演習において関連するプログラムを多数作成することによって、AIプログラミングスキルの習得を目指す。また、AI全般や最新の技術についても紹介し、人工知能全般に関する知識を深める。									
授業目標： Pythonを用いて、モジュールのインポートについて学び、ライブラリを活用したプログラムを書けるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス、AIプログラミングの基礎：授業の概要、目的、進め方、評価方法、Pythonとライブラリ基礎の復習					事前：シラバスの確認 事後：AIプログラミングを調べる		講義40分、演習50分	
2	機械学習の基礎理論：機械学習と教師あり学習・教師なし学習・強化学習の概要					事前：プログラミングの開発環境の下調べ 事後：練習問題		講義40分、演習50分	
3	データ前処理：データのクリーニング、欠損値処理、特徴量エンジニアリング					事前：課題復習と配布資料を読む 事後：練習問題		講義40分、演習50分	
4	回帰モデルの実装(Linear Regression)：線形回帰モデルの理論と実装、実データを用いた予測					事前：課題復習と配布資料を読む 事後：練習問題		講義40分、演習50分	
5	分類モデルの実装(Logistic Regression)：ロジスティック回帰モデルの理論と実装、評価指標(正解率、混同行列)					事前：課題復習と配布資料を読む 事後：練習問題		講義40分、演習50分	
6	決定木とランダムフォレスト：決定木のアルゴリズムとランダムフォレストの紹介、Pythonでの実装と評価					事前：課題復習と配布資料を読む 事後：練習問題		講義40分、演習50分	
7	サポートベクターマシン(SVM)：SVMの理論とカーネル法、実装とハイパーパラメータの調整					事前：課題復習と配布資料を読む 事後：練習問題		講義40分、演習50分	
8	教師なし学習：クラスタリング：K-means法と階層的クラスタリング、Pythonによるデータのグループ化					事前：課題復習と配布資料を読む 事後：練習問題		講義40分、演習50分	
9	ニューラルネットワークの基礎：パーセプトロンと多層ニューラルネットワーク					事前：課題復習と配布資料を読む 事後：練習問題		講義40分、演習50分	
10	ディープラーニング(1)：畳み込みニューラルネットワーク(CNN)の理論、画像分類の実装					事前：課題復習と配布資料を読む 事後：練習問題		講義40分、演習50分	
11	ディープラーニング(2)：再帰型ニューラルネットワーク(RNN)とLSTMの紹介、時系列データ処理					事前：課題復習と配布資料を読む 事後：練習問題		講義40分、演習50分	
12	自然言語処理(NLP)：トークナイズ、Word2Vec、BERTの概要、簡単なテキスト分類タスクの実装					事前：課題復習と配布資料を読む 事後：練習問題		講義40分、演習50分	
13	モデルの評価とチューニング：モデルの過学習とその対策(正則化、ドロップアウト)、ハイパーパラメータチューニング					事前：課題復習と配布資料を読む 事後：練習問題		講義40分、演習50分	
14	実践プロジェクト：各自のテーマに基づくAIモデルの構築、データの収集、前処理、モデルの学習と評価					事前：課題復習と配布資料を読む 事後：練習問題		講義40分、演習50分	
15	最終発表・振り返り：各自のプロジェクト発表とディスカッションを授業の総括と今後の学習方法のアドバイス。					事前：全資料を下読みする 事後：学びの振り返りを行う		講義20分 ディスカッション70分	
教本：					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準： 課題提出（40%）、期末プロジェクト発表（40%）、授業への参加態度（20%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 認証技術の基礎知識（定義）を事前に調べること。課題で授業の内容をもう一度理解して確認すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語 I (English I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	OTC								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： ネイティブ講師が担当します。各項目で重要表現の説明を最小限に行い、場面別の発話を繰り返すことで、学生が能動的に英語での発話に参加できるように促します。挨拶から始め、身の回りの物や国籍、数字、色などの英語の基本表現力を身につけます。									
授業目標： ①英語での簡単な挨拶や自己紹介ができる②英会話の中で使われる最低限必要な英文法を理解する③英語で質問された際に自信を持って応対ができる。 ④単語と定型表現の学習により、英語でのコミュニケーション能力を向上させる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Unit 1：New friends（自己紹介や初対面時の挨拶、会話の中での be 動詞の使い方）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：挨拶表現の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
2	Unit 1：New friends（仕事や都市名について話す、Yes と No で答える質問文及び応答文）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：職業の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
3	Unit 2：People and places（国籍や出身地について話す、場所を尋ねる疑問文の会話）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：国名の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
4	Unit 2：People and places（電話番号を正しく伝える、電話番号やメールアドレスを尋ねる表現）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：数字の発音を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
5	Unit 2：People and places（家族と数字の説明、Who～や How old～を使った疑問文の会話）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：家族の表現を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
6	Unit 3：What's that?（身近な物について話す、a と an の使い分け、複数形を使った会話）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：身近な物の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
7	Unit 3：What's that?（服装や色について話す、所有代名詞を使った会話）グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：服装や色の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
8	Unit 4：Daily life（電車、バスなど移動手段について話す、時間について尋ねる会話）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：場所と時の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
9	Unit 4：Daily life（毎日のスケジュールについて話す Yes と No で答える質問文）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：予定の表現を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
10	Unit 5：Free time（メールや音楽などの習慣について話す、頻度について話す表現）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：頻度の表現を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
11	Unit 5：Free time（買い物の表現について話す、値段を尋ねる表現）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：買い物時の表現を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
12	Unit 5：Free time（自由時間の使い方について尋ねる、What, Who, When などを使った疑問文）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：定型質問文を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
13	Unit 6：Work and play（多様な職業名について話す、What などの疑問文に does を加えた表現）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：職業名の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
14	Unit 6：Work and play（できること、できないことについて話す、Can を使って能力について尋ねる）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：能力の表現を確認する		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
15	Unit 6：Work and play（できること、できないことについて話す、様々な職業について話す）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：仕事関連表現を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
教本： Four Corners 1 (Cambridge)					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）並びに試験期間中の英語テストによる評価（50%）を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： 英語で話すことに自信を持てるようネイティブ講師が指導します。積極的に英語で話すことを繰り返していけば、やがて英語に慣れ親しめるようになります。簡単な表現で伝わる英語を学びましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語 I (English I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	末 次 俊 之								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 中学・高校の基礎的英語を強化、補足します。文法の基礎、初歩リスニング、ライティングを通じて、総合的英語能力のアップを図ります。									
授業目標： 1. 英文法、語彙、リスニング、ライティングの基礎学力を向上させる。 2. 平易な英語を正確に読み取り、身近な事柄について表現できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
◎				○					
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態		
1	オリエンテーション：授業の進め方、事前・事後学習の方法についての説明、自己紹介			事前：特になし 事後：授業の復習			講義・対話		
2	Unit 1：Welcome to Japan 1			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
3	Unit 1：Welcome to Japan 2			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
4	Unit 2：That Sounds Like Fun 1			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
5	Unit 2：That Sounds Like Fun 2			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
6	Unit 3：We Leave on Friday Morning 1			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
7	Unit 3：We Leave on Friday Morning 2			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
8	Unit 4：You Know a Lot About Trains 1			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
9	Unit 4：You Know a Lot About Trains 2			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
10	Unit 5：I Didn't Want to Leave 1			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
11	Unit 5：I Didn't Want to Leave 2			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
12	Unit 6：You're Working Late 1			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
13	Unit 6：You're Working Late 2			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
14	Unit 7：I'm Sure He'll Understand 1			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
15	Unit 7：I'm Sure He'll Understand 2			事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習			講義 10分、リスニング 15分、リーディング 30分、 グラマーチェック 15分、質疑応答 20分		
教本： Robert Hickling 白倉美里『English First basic 大学英語の総合的アプローチ：基礎編』（金星堂、2020年）、¥1,900。									
						参考文献：			
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）並びに授業内評価（授業参加状況、英単語クイズ、小テスト、定期試験、50%）を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： 授業では、中学・高校英語の基礎的能力を再確認し、復習します。高校で使用した英語文法書を片手に復習すれば、より正確に基礎を定着させることができます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語 I (English I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	廣 本 和 枝								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 会話、文法、リーディングからなるテキストを使用します。英語の基礎的なスキルを学び直し、いわゆる学校文法の理解を確認する授業です。学生が英語を使う機会をできるだけ多くするために、ペア・ワーク、グループワーク、ゲームなども取り入れます。									
授業目標： 英語コミュニケーションの基礎レベル、Common European Framework of Reference A2に達することを目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Unit 1 Introduction in the USA 現在形（一般動詞と be 動詞）					事前：p.13 事後：writing p.16		タスク実践 60分 演習 30分	
2	Unit 2 The Natural Wonders of Iceland 現在進行形（一般動詞と be 動詞）					事前：p.19 事後：writing p.22		タスク実践 60分 演習 30分	
3	Unit 3 Getting Around the UK 現在形の否定文と疑問文					事前：p.25 事後：writing p.28		タスク実践 60分 演習 30分	
4	Unit 4 Tackling Rugby in Ireland 命令文					事前：p.31 事後：writing p.34		タスク実践 60分 演習 30分	
5	Unit 5 Norwegian Folktales 過去形（be 動詞・一般動詞）					事前：p.37 事後：writing p.40		タスク実践 60分 演習 30分	
6	Unit 6 Food Tour in Germany 未来表現					事前：p.43 事後：writing p.46		タスク実践 60分 演習 30分	
7	Unit 7 Austrian Symphony WH 疑問文					事前：p.49 事後：writing p.52		タスク実践 60分 演習 30分	
8	Unit 8 The Animals of Malta 助動詞(can, must, may, should)					事前：p.55 事後：writing p.58		タスク実践 60分 演習 30分	
9	Unit 9 Moroccan Souvenirs 現在完了形					事前：p.61 事後：writing p.64		タスク実践 60分 演習 30分	
10	Unit 10 Spanish Dancing Lessons 受動態					事前：p.67 事後：writing p.70		タスク実践 60分 演習 30分	
11	Unit 11 Fashion Week in France 最上級					事前：p.73 事後：writing p.76		タスク実践 60分 演習 30分	
12	Unit 12 a Fjord in Montenegro 比較級					事前：p.79 事後：writing p.82		タスク実践 60分 演習 30分	
13	Unit 13 Swiss Sweets 不定詞・動名詞					事前：p.85 事後：writing p.88		タスク実践 60分 演習 30分	
14	Unit 14 Fine Art in Italy 接続詞(when, before, after, because)					事前：p.91 事後：writing p.94		タスク実践 60分 演習 30分	
15	Unit 15 Back Home to Japan 関係代名詞					事前：p.97 事後：writing p.100		タスク実践 60分 演習 30分	
教本： <i>Make Your Way!</i> Akira Tajino 金星堂 ￥2,000+ 税 ISBN978-4-7647-4216-1					参考文献： <i>How English Works</i> M. Swan, C. Walter Oxford Univ. Press				
成績評価の方法、評価基準： 英語統一テストの評価50%、並びに担当教員による評価50%を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： 授業毎に実施するタスクを平常点として評価の対象にしますので、授業を休まないようにしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語Ⅱ (English II)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	OTC								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： ネイティブ講師が担当し、各項目で必要な表現の説明を最小限に行い、使える表現の発話を繰り返すことで、生徒が能動的に英語での発話に参加できるように促します。食事や道案内などの会話表現及び過去形、進行形などの英語文法の基本表現を学びます。									
授業目標： ①英語での簡単な挨拶や自己紹介ができる②英会話の中で使われる最低限必要な英文法を理解する③英語で質問された際に自信を持って応対ができる。 ④単語と定型表現の学習により、英語でのコミュニケーション能力を向上させる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Unit 7：Food（食べ物とその量について話す、some と any 【可算名詞と不可算名詞】の使い分け）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：食べ物の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
2	Unit 7：Food（料理と頻度について話す、毎日、週 1 回などの頻度について話す）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：頻度の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
3	Unit 8：In the neighborhood（道案内の表現を覚える、会話の中での場所の前置詞の使い分け表現）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：場所の前置詞を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
4	Unit 8：In the neighborhood（観光施設の場所を尋ねる、Turn left/左に曲がる等の表現）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：道案内の表現を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
5	Unit 8：In the neighborhood（道案内の情報を尋ねる、There is/are を使った表現）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：場所や時刻の確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
6	Unit 9：What's are you doing?（動作表現の動詞を覚える、ing を使った現在進行形の表現）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：前置詞の使い方を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
7	Unit 9：What's are you doing?（興味のあることについての表現、疑問詞を使い現在進行形で尋ねる）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：近況表現を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
8	Unit 10：Past experiences（過去の出来事について話す、規則動詞の過去形を使った表現）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：過去形の表現を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
9	Unit 10：Past experiences（不規則動詞を使い出来事を説明する、不規則動詞の過去形を使った表現）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：不規則動詞の確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
10	Unit 11：Getting away（感情表現について話す、be 動詞の過去形を使った表現）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：感情表現を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
11	Unit 11：Getting away（ナチュラルに会話をつなげる、いいこと、悪いことについての表現）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：日常会話の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
12	Unit 11：Getting away（休暇時の表現について話す、Where などの質問文の過去形の表現）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：休暇時の表現を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
13	Unit 12：Time to celebrate（数詞と未来について話す、Be going to と Yes/No を使った文）、グループワーク。					事前：語彙・発音を調べる 事後：数詞の語彙を確認		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
14	Unit 12：Time to celebrate（パーティーの計画について話す、疑問文で現在進行形を使って話す）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：未来の表現を確認する		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
15	Unit 12：Time to celebrate（世界各国の誕生日について話す、祝いに関することを話す）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：祝いの表現を確認する		講義 40分、会話 30分、ディスカッション 20分	
教本： Four Corners 1 (Cambridge)					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）並びに試験期間中の英語テストによる評価（50%）を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： 英語で話すことに自信を持てるようネイティブ講師が指導します。積極的に英語で話すことを繰り返していけば、やがて英語に慣れ親しめるようになります。簡単な表現で伝わる英語を学びましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語Ⅱ (EnglishⅡ)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	末 次 俊 之								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 時事英語を扱う教科書を使い、ビジネス、文化、環境、社会、科学、ファッションなどのテーマでニュース記事を読みます。英文記事を用いて、リスニング、グラマーチェック、日本語訳などを行います。ニュース記事を読むことによって、語彙力のアップにもつながります。									
授業目標： 1. ニュース英語にふれ、表現に慣れる。 2. 英文記事からさまざまなテーマを通じて世界の動向を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	オリエンテーション：授業の進め方、事前・事後学習の方法についての説明、自己紹介				事前：特になし 事後：授業の復習		講義10分、リスニング15分、リーディング30分、 グラマーチェック15分、質疑応答20分		
2	Unit 8：I'll Remember That 1				事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習		講義10分、リスニング15分、リーディング30分、 グラマーチェック15分、質疑応答20分		
3	Unit 8：I'll Remember That 2				事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習		講義10分、リスニング15分、リーディング30分、 グラマーチェック15分、質疑応答20分		
4	Unit 9：Hiro Forgot 1				事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習		講義10分、リスニング15分、リーディング30分、 グラマーチェック15分、質疑応答20分		
5	Unit 9：Hiro Forgot 2				事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習		講義10分、リスニング15分、リーディング30分、 グラマーチェック15分、質疑応答20分		
6	Unit 10：How Have You Been? 1				事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習		講義10分、リスニング15分、リーディング30分、 グラマーチェック15分、質疑応答20分		
7	Unit 10：How Have You Been? 2				事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習		講義10分、リスニング15分、リーディング30分、 グラマーチェック15分、質疑応答20分		
8	Unit 11：While They're Here 1				事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習		講義10分、リスニング15分、リーディング30分、 グラマーチェック15分、質疑応答20分		
9	Unit 11：While They're Here 2				事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習		講義10分、リスニング15分、リーディング30分、 グラマーチェック15分、質疑応答20分		
10	Unit 12：How Was Tennis? 1				事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習		講義10分、リスニング15分、リーディング30分、 グラマーチェック15分、質疑応答20分		
11	Unit 12：How Was Tennis? 2				事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習		講義10分、リスニング15分、リーディング30分、 グラマーチェック15分、質疑応答20分		
12	Unit 13：What Do you Mean? 1				事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習		講義10分、リスニング15分、リーディング30分、 グラマーチェック15分、質疑応答20分		
13	Unit 13：What Do you Mean? 2				事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習		講義10分、リスニング15分、リーディング30分、 グラマーチェック15分、質疑応答20分		
14	Unit 14：Well, What Are You Wating For? 1				事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習		講義10分、リスニング15分、リーディング30分、 グラマーチェック15分、質疑応答20分		
15	Unit 14：Well, What Are You Wating For? 2				事前：単語調べ、リーディング練習 事後：授業の復習		講義10分、リスニング15分、リーディング30分、 グラマーチェック15分、質疑応答20分		
教本： Robert Hickling 白倉美里『English First basic 大学英語の総合的アプローチ：基礎編』（金星堂、2020年）、¥1,900。									
参考文献： Robert Hickling 白倉美里『English First basic 大学英語の総合的アプローチ：基礎編』（金星堂、2020年）、¥1,900。									
成績評価の方法、評価基準： 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）ならびに授業内評価（授業参加状況、英単語クイズ、小テスト、定期試験、50%）を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： 日常的に、新聞やニュースに触れておくことをお勧めします。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 Ⅱ (English Ⅱ)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	廣 本 和 枝								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要： リーディングとリスニングを中心にした TOEIC テキストを用いて、文法事項の確認をしながら、様々な分野について、頻度の高い語彙と表現を増やすことを目標とします。ペアワーク、グループワーク、ゲームなどを採り入れて、その課で学んだ英語を楽しく使う時間をできるだけ多くなるようにします。									
授 業 目 標： 英語コミュニケーションの Common European Framework of Reference B1 に到達することを目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学 習 課 題）		授 業 形 態	
1	Unit 1	Daily Life	名詞			事前：p.19 事後：Handout		タスク実践 60分 演習 30分	
2	Unit 2	Eating Out & Shopping	形容詞・副詞			事前：p.26 事後：handout		タスク実践 60分 演習 30分	
3	Unit 3	Classes & Lessons	動詞			事前：p.33 事後：Handout		タスク実践 60分 演習 30分	
4	Unit 4	Events	現在形・現在進行形			事前：p.40 事後：Task for Review		タスク実践 60分 演習 30分	
5	Unit 5	Traffic & Travel	過去形・過去進行形			事前：p.47 事後：Handout		タスク実践 60分 演習 30分	
6	Unit 6	News	未来表現			事前：p.54 事後：Task for Review		タスク実践 60分 演習 30分	
7	Unit 7	Job Offers & Employment	現在完了形			事前：p.61 事後：Handout		タスク実践 60分 演習 30分	
8	Unit 8	Office Work & Meetings	受動態			事前：p.68 事後：Handout		テスト 30分 発表 90分	
9	Unit 9	Business	接続詞			事前：p.76 事後：Handout		タスク実践 60分 演習 30分	
10	Unit 10	Announcement & Advertisements	前置詞			事前：p.83 事後：Handout		タスク実践 60分 演習 30分	
11	Unit 11	Personnel	代名詞			事前：p.91 事後：Handout		タスク実践 60分 演習 30分	
12	Unit 12	Health & Environmnet	不定詞			事前：p.99 事後：Handout		タスク実践 60分 演習 30分	
13	Unit 13	Finance & Banking	助動詞			事前：p.109 事後：Handout		タスク実践 60分 演習 30分	
14	Unit 14	Production & Logistics	～ing 形			事前：p.119 事後：Handout		タスク実践 60分 演習 30分	
15	Unit 15	Research and Development & ICT	関係詞			事前：p.127 事後：Handout		タスク実践 60分 演習 30分	
教 本： <i>Climb High to the TOEIC L&R Test</i> Masako Yasumaru 他 金星堂 ￥2,300 + 税 ISBN978-4-7647-4216-1									
参 考 文 献： <i>How English Works</i> M. Swan, C. Walter Oxford Univ. Press									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準： 英語統一テストの評価50%、並びに担当教員による評価50%を総合して評価します。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 授業毎に実施するタスクを平常点として評価の対象にしますので、授業を休まないようにしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語Ⅲ (English Ⅲ)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	阿部 美恵								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 英語Ⅰ・Ⅱで学習した英語のさらなる向上を図る。授業では毎回焦点を絞って英文法の基本的なルールやフォームを再確認し、リーディング・ライティング・リスニング・スピーキングの四つの能力を習得するためのタスクを行う。									
授業目標： ①語彙を増やし、基本的な文法を確認しながら英語の四つの技能の定着を図る。 ②日常生活で使用される英語表現からビジネス英語までを習得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業の進め方と評価方法についての説明 自己紹介					事前：シラバスを読む 事後：授業の復習		解説	
2	Unit 1 Nice to Meet You					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
3	Unit 1 Nice to Meet You					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
4	Unit 2 Getting Started					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
5	Unit 2 Getting Started					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
6	Unit 3 Office Tour					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
7	Unit 3 Office Tour					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
8	Unit 4 First Work Assignment					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
9	Unit 4 First Work Assignment					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
10	Unit 5 Small Talk with Co-Workers					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
11	Unit 5 Small Talk with Co-Workers					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
12	Unit 6 First Contact with a Client					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
13	Unit 6 First Contact with a Client					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
14	Unit 7 Client Meeting Preparation					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
15	Unit 7 Client Meeting Preparation					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
教本：参考文献： テキストについては初回の授業で案内します。									
成績評価の方法、評価基準： 担当教員の評価（50％）、英語統一テストの結果（50％）で評価します。 担当教員の評価方法は授業参加状況等（50％）、小テスト・レポート等（20％）、定期試験（30％）等で総合評価します。									
学生へのアドバイス： 多くの機会を利用して、英語に触れるように努めてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語Ⅲ（EnglishⅢ）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	OTC								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： ネイティブ講師が担当します。各項目で重要表現の説明を最小限に行い、場面別の発話を繰り返すことで、学生が能動的に英語での発話に参加できるように促します。趣味、スポーツ、天気、体調、テレビ番組などについての英語応用表現力を身につけます。									
授業目標： ①英語での挨拶や自己紹介ができる②英会話の中で必要な各種話題に、簡単な英語で対応できる会話力を身につける③相手に尋ねたり、質問に答えたりするなど、応用表現力を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Unit 1：My interests（自己紹介や初対面時の挨拶、会話の中での be 動詞の使い方）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：挨拶表現の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
2	Unit 1：My interests（スポーツについて話す、会話の中での動詞の過去形の使い方）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：スポーツの語彙		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
3	Unit 2：Descriptions（人物描写、What…like?を使った会話）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：国名の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
4	Unit 2：Descriptions（分からないことを確かめる、質問に答える表現）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：he と she の発音		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
5	Unit 2：Descriptions（容姿の説明、What…look like?を使った会話）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：家族の表現を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
6	Unit 3：Rain or shine（天気について話す、会話の中での副詞の使い方）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：身近な物の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
7	Unit 3：Rain or shine（室内でのアクティビティについて話す、Would you like todo?を使った会話）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：服装や色の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
8	Unit 4：Life at home（家の中の物について話す、How many/much…を使った会話）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：場所と時の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
9	Unit 4：Life at home（家の中での動作について話す、掃除などについて話す）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：予定の表現を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
10	Unit 5：Health（身体について話す、動作について話す）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：頻度の表現を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
11	Unit 5：Health（体調について話す、病院で体調を伝える会話）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：買い物時の表現を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
12	Unit 5：Health（健康についての習慣について話す、Howoften…?を使った会話）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：定型質問文を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
13	Unit 6：What's on TV?（テレビ番組を説明する、hope to…、want to…などを使った会話）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：職業名の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
14	Unit 6：What's on TV?（テレビについて話す、会話の中での現在進行形の使い方）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：能力の表現を確認する		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
15	Unit 6：What's on TV?（テレビ番組について話す、好きな番組を説明する）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：TV 番組の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
教本： Four Corners 2（Cambridge）					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）並びに試験期間中の英語テストによる評価（50%）を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： 英語で話すことに自信を持てるようネイティブ講師が指導します。積極的に英語で話すことを繰り返していけば、やがて英語に慣れ親しめるようになります。簡単な表現で伝わる英語を学びましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語Ⅲ（EnglishⅢ）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本演習では、英語の基本的な文法項目を紹介しつつ（拘束課題：教員担当）、様々な英語上の問題点（自由課題：学生提示）について議論を行い、広く英語の技能を身につけるとともに、より広い実践的な力をつけてもらうことを目標とする。その目標を達成するために、本授業では、ノートを正確に取ってもらうことを求める。									
授業目標： 人前で英語に関する話題ができるようになること、人の話を正確に聞きとり、議論のテーブルに参加できることを求める。 特に、人の話を聞けるようになることを最重要項目とする。また、英語統一試験に向けて、単語力を養成することを次点の目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
○				◎					
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Punctuation（拘束課題）・学生発表についての説明（自由課題） （以下、左側の記述は拘束課題、右側は自由課題）					事前：なし 事後：ノートまとめ		演習90分	
2	Punctuation・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
3	8品詞・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
4	語句節・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
5	物質名詞と普通名詞・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
6	冠詞・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
7	5文型・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
8	Be動詞の意味・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
9	擬似補語・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
10	ネクサス関係・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
11	意味上の主語・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
12	There構文・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
13	新情報と旧情報・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
14	所有格・学生発表の演習を行う。					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
15	総まとめ及びコメント					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
教本： 『英検準2級 出る順パス単』旺文社					参考文献： なし				
成績評価の方法、評価基準： レポート（50%）、英語統一テストの結果（50%）で評価します。									
学生へのアドバイス： よくノートを取るようにしてください。ノートを取ったらよく考えてみてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語Ⅳ (English Ⅳ)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	阿 部 美 恵								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 英語Ⅰ・Ⅱで学習した英語のさらなる向上を図る。授業では毎回焦点を絞って英文法の基本的なルールやフォームを再確認し、リーディング・ライティング・リスニング・スピーキングの四つの能力を習得するためのタスクを行う。									
授業目標： ①語彙を増やし、基本的な文法を確認しながら英語の四つの技能の定着を図る。 ②日常生活で使用される英語表現からビジネス英語までを習得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Unit 8 Final Preparations					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
2	Unit 8 Final Preparations					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
3	Unit 9 First Meeting					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
4	Unit 9 First Meeting					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
5	Unit 10 Time Management					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
6	Unit 10 Time Management					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
7	Unit 11 Meeting Follow-up					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
8	Unit 11 Meeting Follow-up					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
9	Unit 12 A Last-Minute Request					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
10	Unit 12 A Last-Minute Request					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
11	Unit 13 Giving Freeback					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
12	Unit 13 Giving Freeback					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
13	Unit 14 Final Steps					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
14	Unit 14 Final Steps					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
15	Unit 15 A Job Well Done					事前：単語調べ 事後：授業の復習		文法 30分、会話 20分 読解 20分、writing 20分	
教本：参考文献： テキストについては初回の授業で案内します。									
成績評価の方法、評価基準： 担当教員の評価（50％）、英語統一テストの結果（50％）で評価します。 担当教員の評価方法は授業参加状況等（50％）、小テスト・レポート等（20％）、定期試験（30％）等で総合評価します。									
学生へのアドバイス： 多くの機会を利用して、英語に触れるように努めてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語Ⅳ (English Ⅳ)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	OTC								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： ネイティブ講師が担当します。各項目で重要表現の説明を最小限に行い、場面別の発話を繰り返すことで、学生が能動的に英語での発話に参加できるように促します。買物、観光地、経歴、食品などについての英語応用表現力を身につけます。									
授業目標： ①英語での挨拶や自己紹介ができる②英会話の中で必要な各種話題に、簡単な英語で対応できる会話力を身につける③相手に尋ねたり、質問に答えたりするなど、応用表現力を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Unit 7：Shopping（軽い、薄いなど物の形状を説明する）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：形状表現の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
2	Unit 7：Shopping（簡単な値段交渉の会話、enough の会話の中での使い方）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：買物表現の語彙		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
3	Unit 8：Fun in the city（世界の観光地を説明する、shoud と Can の会話の中での使い方）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：観光地の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
4	Unit 8：Fun in the city（人に勧めたり、お勧めを聞いたりする表現）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：勧誘表現の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
5	Unit 8：Fun in the city（都市の特徴を説明する、比較級の最上級を使った会話）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：都市の説明表現を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
6	Unit 9：People（職業、経歴を説明する、born を使った表現）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：経歴表現の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
7	Unit 9：People（確かである、不確かであることを伝える表現、会話の中で positive を使った表現）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：positive を使った表現		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
8	Unit 9：People（個人の経歴を伝える、過去の出来事を説明する表現）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：経歴表現の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
9	Unit 10：In a restaurant（食べ物について説明する、会話の中で、a、an、the などを使い分ける）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：食べ物の表現を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
10	Unit 10：In a restaurant（フルーツやドリンクについて説明する、会話の中で完了形を使い分ける）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：完了形の表現を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
11	Unit 11：Entertainment（映画のタイプを説明する、会話の中で neither、either を使う表現）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：映画説明の表現を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
12	Unit 11：Entertainment（音楽のタイプを説明する、会話の中で most of、some of などを使い分ける）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：音楽説明の語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
13	Unit 12：Time for a change（目標について話す、Good News と Bad News について話す）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：目標を語る語彙を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
14	Unit 12：Time for a change（将来について話す、会話の中で、will、may、might などを使って話す）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：将来の説明表現を確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
15	Unit 12：Time for a change（将来について話す、インタビュー形式での会話）、グループワーク					事前：語彙・発音を調べる 事後：インタビュー用語確認		講義40分、会話30分、ディスカッション20分	
教本： Four Corners 2 (Cambridge)					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50％）並びに試験期間中の英語テストによる評価（50％）を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： 英語で話すことに自信を持てるようネイティブ講師が指導します。積極的に英語で話すことを繰り返していけば、やがて英語に慣れ親しめるようになります。簡単な表現で伝わる英語を学びましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語Ⅳ（EnglishⅣ）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本演習では、英語の基本的な文法項目を紹介しつつ（拘束課題：教員担当）、様々な英語上の問題点（自由課題：学生提示）について議論を行い、広く英語の技能を身につけるとともに、より広い実践的な力をつけてもらうことを目標とする。その目標を達成するために、本授業では、ノートを正確に取ってもらうことを求める。									
授業目標： 人前で英語に関する話題ができるようになること、人の話を正確に聞きとり、議論のテーブルに参加できることを求める。 特に、人の話を聞けるようになることが最重要である。また、英語統一試験に向けて、単語力を養成することを次点の目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
○				◎					
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	不定代名詞 one（拘束課題）・学生発表に 関 しての説明（自由課題） （以下、左側の記述は拘束課題、右側は自由課題）					事前：なし 事後：ノートまとめ		演習90分	
2	Some と any ・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
3	It について ・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
4	形容詞 ・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
5	副詞 ・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
6	前置詞 ・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
7	等位接続詞 ・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
8	関係代名詞 who, which ・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
9	関係副詞 ・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
10	接続詞 that, 関係詞 that ・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
11	強調構文 ・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
12	強調表現 ・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
13	代用表現 ・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
14	取り扱っていない文法項目の紹介 ・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
15	総まとめ及びコメント					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習90分	
教本： 『英検準2級 出る順パス単』旺文社					参考文献： なし				
成績評価の方法、評価基準： レポート（50%）、英語統一テストの結果（50%）で評価します。									
学生へのアドバイス： よくノートを取るようにしてください。ノートを取ったらよく考えてみてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	英語学概論 A（English Linguistics A）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 音声・単語・文法・意味など、様々な観点から英語学について講義する。ひとつひとつのテーマが明確に分かれれば、英語学が狙いとしているものが見えてくると考える。									
授業目標： 受講者は英語学的な観点から物事が分析できるようになることを目標とする。英語学とは何かを理解することがテーマである。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
2	音声学について講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
3	音韻論について講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
4	形態論（1） 接辞及び語幹について講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
5	形態論（2） かばん語などについて講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
6	形態論（3） その他の形態論について講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
7	統語論（1） 学校文法について講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
8	統語論（2） 構造言語学について講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
9	統語論（3） 変形生成文法などについて講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
10	統語論（4） コーパス言語学などについて講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
11	意味論（1） 日本語訳をするにあたってについて講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
12	意味論（2） 意味の多様性について講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
13	語用論（1） 語用論とは何かについて講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
14	語用論（2） 実際に語用論を用いて考えるについて講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
15	形態論・統語論・意味論・語用論の総まとめについて講義を行う。					事前：ノートまとめ 事後：ノートを読みかえす		講義 90分	
教本： 『新 えいご・エイゴ・英語学』 稲木昭子・堀田知子・沖田知子著 松柏社					参考文献： 授業中に適宜資料を配布及び紹介する。特にBBC Newsなどのインターネットを用いて無料で学習できる教材をいくつか紹介し、利用報告をしてもらう。				
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（80%）、毎回の授業後のレポート等（20%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： よくノートを取るようにしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義	
授業科目(英文)	英語学概論 B（English Linguistics B）						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	岡部 佑人									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	そ の 他	なし								
授業概要： 英語学とは何かということを説明する。そして、その英語学的な視点から物事を分析できるようになる。そのためには、ノートをしっかり取ることが重要です。										
授業目標： 受講者は英語学的な観点から物事が分析できるようになる。英語学概論 B では、特に、英語史に関する内容を理解し、日々の英語学習に生かせるようにすることを目標とする。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	Introduction を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分		
2	世界の英語について講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分		
3	英語史（1） 古英語について講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分		
4	英語史（2） 中英語について講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分		
5	英語史（3） 近代英語について講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分		
6	英語史（4） 現代英語について講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分		
7	英語の語源について講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分		
8	学生発表(1)を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		演習 90分		
9	現代の英語学について講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分		
10	社会言語学について講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分		
11	学生発表(2)を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		演習 90分		
12	コンピュータと英語学（1） BNC corpus について講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分		
13	コンピュータと英語学（2） COHA, COCA などについて講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分		
14	学生発表（3）を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		演習 90分		
15	世界の英語・英語史・現代の英語・社会言語学の総まとめについて講義を行う。					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義 90分		
教本： 『新 えいご・エイゴ・英語学』 稲木昭子・堀田知子・沖田知子著 松柏社										参考文献： 授業中に適宜資料を配布及び紹介する。特に、Dictionary.com などのインターネットを用いて無料で学習できる教材をいくつか紹介し、実際に利用報告をしてもらう。
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（80％）、毎回の授業の最後のレポート等（20％）で総合評価する。										
学生へのアドバイス： よくノートを取るようにしてください。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語スピーキングⅠ（English SpeakingⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本授業では、英語をなるべく多く発言してもらうことを目標とする。多くの演習をこなすことを重視するため、正確性は二の次とする。									
授業目標： 1. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと[やり取り・発表]ができる。 2. 数多くの英語を話すこと 3. 相手の英語の発音を聞き取れるようになること									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction（授業時の注意、成績評価についての確認を行う）					事前：なし 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
2	Vacation（休暇について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
3	Growing Up（生まれ育ちについて、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
4	Entertainment（娯楽、趣味について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
5	Food and Drink（食べ物、飲み物について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
6	Travel and Tourism（旅行と観光について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
7	Education（教育、教育制度について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
8	総まとめ					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
9	Fashion（ファッション、衣類について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
10	Living Abroad（海外生活について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
11	Working Life（仕事について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
12	Health（健康について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
13	Changing Times（時代の変遷について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
14	Student Life（学生生活について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
15	Speech Testを行う。					事前：授業内容で英作文 事後：なし		演習 90分	
教本： なし					参考文献： 適宜、授業内で紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 課題およびパフォーマンス（50%）、Speech Test（50%）を総合して評価する。									
学生へのアドバイス： たくさんの英語を話してみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語スピーキングⅡ（English Speaking Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本授業では、英語をなるべく多く発言してもらうことを目標とする。多くの演習をこなすことを重視するため、正確性は二の次とする。									
授業目標： 1. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと〔やり取り・発表〕ができる。 2. 数多くの英語を話すこと 3. 相手の英語の発音を聞き取れるようになること									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction（授業時の注意、成績評価についての確認を行う）					事前：なし 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
2	The Arts（芸術について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
3	Shopping（買い物について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
4	Friends（友人、親友について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
5	Sport（運動、スポーツについて、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
6	Politics（政治問題について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
7	Animals（生物、動物について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
8	総まとめ					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
9	Money Matters（経済、お金について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
10	Cultural Identity（文化について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
11	Family（家族について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
12	Youth Culture（若者文化について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
13	Dating and Marriage（デート、結婚について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
14	Crime（犯罪について、英語で話せるようになる）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
15	Speech Test を行う。					事前：授業内容で英作文 事後：なし		演習 90分	
教本： なし			参考文献： 適宜、授業内で紹介する。						
成績評価の方法、評価基準： 課題およびパフォーマンス（50%）、Speech Test（50%）を総合して評価する。									
学生へのアドバイス： たくさんの英語を話してみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語通訳Ⅰ（English TranslationⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	田中 一郎								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 国際化が進む中、旅行やビジネス、日常生活において外国人と接する機会が増えている。この授業では、実際に想定されるそれぞれの会話の場面においてよく用いられる英語表現を学びながら、逐次通訳の練習を行う。これによって、これらの場面における実用初級レベルの英日・日英の逐次通訳ができる能力を身につける。 英語ニュースの通訳では、比較的ゆっくりした速度の英語ニュースを聞き、日本語に逐次通訳する練習をする。ニュースは毎回、新しい話題をテーマにした30秒程度のものを取り上げる。									
授業目標： 旅行等における日常会話の逐次英語通訳能力（英日・日英）および英語ニュースの逐次通訳能力（英日）の修得。レベルは実用初級レベル。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction：授業の進め方と授業概要の説明（説明・質疑応答）					事前：— 事後：授業概要の復習		演習（説明 45分、質疑応答 45分）	
2	Conversation（英日・日英逐次通訳）Riding a Train English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：— 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、 英日通訳実践 45分）	
3	Conversation（英日・日英逐次通訳）Riding a Train English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、 英日通訳実践 45分）	
4	Conversation（英日・日英逐次通訳）Taking an Airplane English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、 英日通訳実践 45分）	
5	Conversation（英日・日英逐次通訳）At a Ryokan English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、 英日通訳実践 45分）	
6	Conversation（英日・日英逐次通訳）At a Ryokan English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、 英日通訳実践 45分）	
7	Conversation（英日・日英逐次通訳）At a Hotel English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、 英日通訳実践 45分）	
8	Conversation（英日・日英逐次通訳）At a Tourist Info Center English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、 英日通訳実践 45分）	
9	Conversation（英日・日英逐次通訳）At a Tourist Info Center English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、 英日通訳実践 45分）	
10	Conversation（英日・日英逐次通訳）At a Travel Agency 小テスト（60分、範囲は1～10で学習したところ）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 30分） 小テスト 60分	
11	Conversation（英日・日英逐次通訳）At a Travel Agency English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、 英日通訳実践 45分）	
12	Conversation（英日・日英逐次通訳）Sightseeing English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、 英日通訳実践 45分）	
13	Conversation（英日・日英逐次通訳）Sightseeing English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、 英日通訳実践 45分）	
14	Conversation（英日・日英逐次通訳）Sightseeing English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、 英日通訳実践 45分）	
15	Summary：重要なポイントの解説と全体のまとめ（解説・質疑応答）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（解説 45分、質疑応答 45分）	
教本： 教科書は使用しない。プリントを配付する。					参考文献： 適宜、紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 英語の基礎を修得していることが望ましい。毎回出席するよう努めよう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語通訳Ⅱ（English TranslationⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	田 中 一 郎								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 国際化が進む中、旅行やビジネス、日常生活において外国人と接する機会が増えている。この授業では、実際に想定されるそれぞれの会話の場面においてよく用いられる英語表現を学びながら、逐次通訳の練習を行う。これによって、これらの場面における実用中級レベルの英日・日英の逐次通訳ができる能力を身につける。 英語ニュースの通訳では、ナチュラルスピードに近い英語ニュースを聞き、日本語に逐次通訳する練習をする。ニュースは毎回、新しい話題をテーマにした30秒程度のものを取り上げる。									
授業目標： 旅行、ビジネス等における会話の逐次英語通訳能力（英日・日英）および英語ニュースの逐次通訳能力（英日）の修得。レベルは実用中級レベル。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction：授業の進め方と授業概要の説明（説明・質疑応答）					事前：— 事後：授業概要の復習		演習（説明 45分、質疑応答 45分）	
2	Conversation（英日・日英逐次通訳）At a Restaurant English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：— 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、 英日通訳実践 45分）	
3	Conversation（英日・日英逐次通訳）At a Restaurant English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、 英日通訳実践 45分）	
4	Conversation（英日・日英逐次通訳）At a Restaurant English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、 英日通訳実践 45分）	
5	Conversation（英日・日英逐次通訳）Shopping English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、 英日通訳実践 45分）	
6	Conversation（英日・日英逐次通訳）Shopping English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、 英日通訳実践 45分）	
7	Conversation（英日・日英逐次通訳）Shopping English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、 英日通訳実践 45分）	
8	Conversation（英日・日英逐次通訳）In the Office English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、 英日通訳実践 45分）	
9	Conversation（英日・日英逐次通訳）In the Office English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、 英日通訳実践 45分）	
10	Conversation（英日・日英逐次通訳）In the Office 小テスト（60分、範囲は1～10で学習したところ）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 30分） 小テスト 60分	
11	Conversation（英日・日英逐次通訳）On the Street English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、 英日通訳実践 45分）	
12	Conversation（英日・日英逐次通訳）Accidents and Emergency English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、 英日通訳実践 45分）	
13	Conversation（英日・日英逐次通訳）Accidents and Emergency English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、 英日通訳実践 45分）	
14	Conversation（英日・日英逐次通訳）Accidents and Emergency English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（ロールプレイ 45分、 英日通訳実践 45分）	
15	Summary：重要なポイントの解説と全体のまとめ（解説・質疑応答）					事前：前回内容の復習 事後：今回内容の復習		演習（解説 45分、質疑応答 45分）	
教本： 教科書は使用しない。プリントを配付する。					参考文献： 適宜、紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 英語の基礎を修得していることが望ましい。毎回出席するよう努めよう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語プレゼンテーション A (English Presentation A)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	OTC								
履 修 条 件	前提科目	基礎的なスピーキング力があることを前提とします。英語スピーキングⅠ、Ⅱの履修を推奨します。							
	そ の 他	なし							
授業概要： ネイティブ講師が担当します。英語で伝わるプレゼンテーションスキルを基礎から学びます。プレゼンテーションの基本構成からジェスチャー、アイコンタクトなどの重要スキルをレッスン毎に学習します。ミニプレゼンテーションによる人前での発表や、ブレインストーミングなどグループワークによる議論を深めることで、能動的な各学生の参加を促します。学生が自分の意見を発信できる能力を高めます。									
授業目標： ①身近な話題について自信を持って英語でのプレゼンテーションができるようになる②積極的に授業に参加し、グループワークを通じて、毎週様々なトピックについて、自らの意思を発言したり、相手の意見を聞いてディスカッションしたりできるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Getting ready（プレゼンの基本事項の確認）、Self-Introductions（自己紹介）：プレゼンテーションの概要の学習。問題点を検討。					事前：プレゼン語彙を調べる 事後：プレゼン語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
2	Unit 1 A good friend（パーソナリティや興味のあることなどについて話す）：クラスメートと各自のプロフィールについて話す。					事前：自己紹介の語彙の予習 事後：自己紹介の語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
3	Unit 1 A good friend（パーソナリティや興味のあることなどについて話す）：興味のあることを相手に説明する。					事前：興味、関心語彙の予習 事後：興味、関心語彙を確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
4	Unit 1 A good friend（プレゼンテーションの始め方、終わり方）：プレゼンの定型表現を学習する。					事前：プレゼン定型文の予習 事後：プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
5	Unit 1 A good friend（アイコンタクト）：効果的なプレゼンテーションのためのスキルを学習する。					事前：プレゼンスキルの予習 事後：アイコンタクトの確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
6	Unit 1 A good friend（意見交換、ミニプレゼン）：ブレインストーミングとミニプレゼン、グループワーク問題点を検討。					事前：プレゼン定型文の確認 事後：プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
7	Unit 2 A favourite place（好きな場所について話す）：場所を説明する語彙を学習する。					事前：好きな場所を考える 事後：学習した語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
8	Unit 2 A favourite place（プレゼンテーションの始め方、終わり方）：聴衆が持てるように終わる表現を学習する。					事前：導入と締め表現の予習 事後：締めの表現の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
9	Unit 2 A favourite place（ジェスチャー、ボディーランゲージ）：姿勢や手の位置の良い例と悪い例を学習する。					事前：プレゼンスキルの予習 事後：ジェスチャーの確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
10	Unit 2 A favourite place（意見交換、ミニプレゼン）：ブレインストーミングとミニプレゼン、グループワーク問題点を検討。					事前：プレゼン定型文の確認 事後：プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
11	Unit 3 A prize possession（自分の宝物について話す）：自慢の物を相手に説明する。					事前：所有物の説明の予習 事後：所有物の説明の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
12	Unit 3 A prize possession（どのような物なのか説明する）：色、形、模様、大きさ、材質などを説明する。					事前：物の説明表現の予習 事後：材質などの語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
13	Unit 3 A prize possession（物を見せながら説明する）：相手に興味を持たせながら説明する。					事前：Show-and-tellの学習 事後：Show-and-tellの確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
14	Unit 3 A prize possession（意見交換、ミニプレゼン）：ブレインストーミングとミニプレゼン、グループワーク問題点を検討。					事前：プレゼン定型文の確認 事後：プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
15	Final Presentations（グループワーク、模擬プレゼンテーションと質疑応答）					事前：模擬プレゼンの準備 事後：後期授業の総復習		講義 10分、ディスカッション 20分、発表 60分	
教本： Present Yourself 1, 2 nd edition（Cambridge 出版）									
参考文献：									
成績評価の方法、評価基準： 平常点（60％）、課題およびパフォーマンス（40％）を総合して評価する。									
学生へのアドバイス： 人前でのプレゼンテーションだけでなく、事前の準備及び学生同士での意見交換により、自分の意見を英語でいかに伝えたいのかを学びます。英語での発表力及び発信力を身につけるために積極的に授業に参加してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語プレゼンテーションB（English Presentation B）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	OTC								
履 修 条 件	前提科目	基礎的なスピーキング力があることを前提とします。英語スピーキングⅠ、Ⅱの履修を推奨します。							
	そ の 他	なし							
授業概要： ネイティブ講師が担当します。英語で伝わるプレゼンテーションスキルを基礎から学びます。プレゼンテーションの基本構成からジェスチャー、アイコンタクトなどの重要スキルをレッスン毎に学習します。ミニプレゼンテーションによる人前での発表や、ブレインストーミングなどグループワークによる議論を深めることで、能動的な各学生の参加を促します。学生が自分の意見を発信できる能力を高めます。									
授業目標： ①身近な話題について自信を持って英語でのプレゼンテーションができるようになる②積極的に授業に参加し、グループワークを通じて、毎週様々なトピックについて、自らの意思を発言したり、相手の意見を聞いてディスカッションしたりできるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Getting ready（プレゼンの基本事項の確認）、Self-Introductions（自己紹介）：プレゼンテーションの概要の学習。問題点を検討。					事前：プレゼン語彙を調べる 事後：プレゼン語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
2	Unit 4 A memorable experience（自分の経験したことを話す）：感動したこと、恐ろしかったこと、驚いたことなどを説明する。					事前：感情の語彙を調べる 事後：経験の語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
3	Unit 4 A memorable experience（物事を順序立てて話す）：連続した場面を順序立てて説明する。					事前：物語の説明語彙の予習 事後：順序の表現を確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
4	Unit 4 A memorable experience（始め方、終わり方など）：“pass the mike”/効果的なプレゼンの終わり方					事前：プレゼン定型文の予習 事後：プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
5	Unit 4 A memorable experience（声の大きさに注意する）：声の大きさや抑揚に気をつけて話す。					事前：プレゼンスキルの予習 事後：アイコンタクトの確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
6	Unit 4 A memorable experience（ミニプレゼン）：ブレインストーミングとミニプレゼン、グループワーク、問題点を検討。					事前：プレゼン定型文の確認 事後：プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
7	Unit 5 I'll show you how（技術や能力について話す）：個人の技術力や才能とその有益性について話す。					事前：自分のスキルを考える 事後：スキルの語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
8	Unit 5 I'll show you how（料理手順を説明する）：動作や変化を順序立てて説明する。					事前：動作表現の予習 事後：説明語彙の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
9	Unit 5 I'll show you how（ジェスチャーを的確に説明する）：動作をしながら、その動きを説明する。					事前：動作説明表現の予習 事後：ジェスチャーの確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
10	Unit 5 I'll show you how（意見交換、ミニプレゼン）：ブレインストーミングとミニプレゼン、グループワーク、問題点を検討。					事前：プレゼン定型文の確認 事後：プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
11	Unit 6 Screen magic（映画やテレビ番組について説明する）：画面の情報を説明する。					事前：映画の説明表現の予習 事後：情報の説明表現の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
12	Unit 6 Screen magic（聴衆に映画をお勧めして終わる）：効果的な終わり方を学習する。					事前：映画の推奨表現の理解 事後：終わり方の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
13	Unit 6 Screen magic（文の中での抑揚や間を意識して発表する）：効果的な話し方を学習する。					事前：抑揚と間の効果の理解 事後：抑揚と間の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
14	Unit 6 Screen magic（意見交換、ミニプレゼン）：ブレインストーミングとミニプレゼン、グループワーク、問題点を検討。					事前：プレゼン定型文の確認 事後：プレゼン定型文の確認		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
15	Final Presentations（グループワーク、模擬プレゼンテーションと質疑応答）					事前：模擬プレゼンの準備 事後：後期授業の総復習		講義 40分、ディスカッション 30分、発表 20分	
教本： Present Yourself 1, 2 nd edition（Cambridge 出版）									
参考文献：									
成績評価の方法、評価基準： 平常点（60％）、課題およびパフォーマンス（40％）を総合して評価する。									
学生へのアドバイス： 人前でのプレゼンテーションだけでなく、事前の準備及び学生同士での意見交換により、自分の意見を英語でいかに伝えたいのかを学びます。英語での発表力及び発信力を身につけるために積極的に授業に参加してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	英語文学Ⅰ（English LiteratureⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	阿部 美恵								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 授業では文学作品を材料に、内容を理解するための設問、文法力の定着を図る問題、リスニング力を向上させる練習問題によって、様々な英語表現の習得、作品理解、多様な文化の理解を図る。									
授業目標： イギリス、アメリカを代表する作家の作品の講読・鑑賞を通して、読解力を向上させ、多様な英語表現を学ぶことを目標とする。併せて、それぞれの作家や作品について、時代的、社会的、文化的背景を学ぶことによって、多様な文化への理解を深めることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Chapter 1 『トワイライト』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
2	Chapter 1 『トワイライト』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
3	Chapter 2 『ロミオとジュリエット』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
4	Chapter 2 『ロミオとジュリエット』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
5	Chapter 3 『風と共に去りぬ』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
6	Chapter 3 『風と共に去りぬ』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
7	Chapter 4 『ブローックバック・マウンテン』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
8	Chapter 4 『ブローックバック・マウンテン』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
9	Chapter 5 『日の名残り』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
10	Chapter 5 『日の名残り』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
11	Chapter 6 『高慢と偏見』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
12	Chapter 6 『高慢と偏見』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
13	Chapter 7 『ジェイン・エア』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
14	Chapter 7 『ジェイン・エア』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
15	英語文学Ⅰの総括をする					事前： 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
教本： A Look at Love in Fiction(Asahi Press)					参考文献： 授業中に適宜資料を配布する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 常に世界の出来事に関心を持ち、積極的に授業に参加してください。									
オフィスアワー： 初回の講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	英語文学Ⅱ（English LiteratureⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	阿部 美恵								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 授業では文学作品を材料に、内容を理解するための設問、文法力の定着を図る問題、リスニング力を向上させる練習問題によって、様々な英語表現の習得、作品理解、多様な文化の理解を図る。									
授業目標： イギリス、アメリカを代表する作家の作品の講読・鑑賞を通して、読解力を向上させ、多様な英語表現を学ぶことを目標とする。併せて、それぞれの作家や作品について、時代的、社会的、文化的背景を学ぶことによって、多様な文化への理解を深めることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Chapter 8 『息子と恋人』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
2	Chapter 8 『息子と恋人』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
3	Chapter 9 『ある婦人の肖像』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
4	Chapter 9 『ある婦人の肖像』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
5	Chapter 10 『グレート・ギャツビー』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
6	Chapter 10 『グレート・ギャツビー』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
7	Chapter 11 『ある愛の詩』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
8	Chapter 11 『ある愛の詩』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
9	Chapter 12 『きみがぼくを見つけた日』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
10	Chapter 12 『きみがぼくを見つけた日』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
11	Chapter 13 『その名にちなんで』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
12	Chapter 13 『その名にちなんで』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
13	Chapter 14 『ワイフ・プロジェクト』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
14	Chapter 14 『ワイフ・プロジェクト』を精読し、作品理解をする。					事前：作品の下読みをする 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
15	英語文学Ⅱの総括をする					事前： 事後：授業の復習をする		作品精読 50分、作品解説 20分、 練習問題 20分	
教本：A Look at Love in Fiction(Asahi Press)					参考文献： 授業中に適宜資料を配布する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 常に世界の出来事に関心を持ち、積極的に授業に参加してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語ライティングⅠ（English WritingⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができるようになることを目的とする。そのため、受講者は英語の文章を授業内外で書くことになる。									
授業目標： 1. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 2. 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。 3. 多くの語彙に触れ、能動語彙を強化する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction（シラバス内容の確認をし、実際に英文を書く）					事前：なし 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
2	人主語（英語における主語が人である事例について、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
3	無生物主語（英語における主語が物や事柄である事例について、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
4	時制（英語の時制の中でも特に現在形と過去形について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
5	冠詞（1）（不定冠詞について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
6	冠詞（2）（定冠詞について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
7	可算名詞（可算名詞について理解し、冠詞との兼ね合いも含めて書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
8	不可算名詞（不可算名詞について理解し、冠詞との兼ね合いも含めて書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
9	形容詞（1）（形容詞が名詞を修飾する場合について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
10	形容詞（2）（形容詞が主語に対しての補語になる場合について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
11	副詞：（形容詞以外の修飾語として、副詞を理解する）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
12	時制の一致（時制の一致について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
13	二つの品詞性（二つの品詞性について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
14	その他、取り扱わなかった文法項目の概観					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
15	総まとめ（内容の概観を行う）					事前：授業内容で英作文 事後：なし		演習 90分	
教本： なし					参考文献： 適宜、授業内で紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 課題およびパフォーマンス（100％）で評価する。									
学生へのアドバイス： たくさんの英語を書いてみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語ライティングⅡ（English Writing Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができるようになることを目的とする。そのため、受講者は英語の文章を授業内外で書くことになる。									
授業目標： 1. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 2. 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。 3. 多くの語彙に触れ、能動語彙を強化する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction（シラバス内容の確認をし、実際に英文を書く）					事前：なし 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
2	名詞構文（1）（名詞構文の中でも基本的な用法である原因を示す事例を理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
3	名詞構文（2）（名詞構文の中でも時や条件を表す事例を理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
4	助動詞（1）（助動詞の根源的用法について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
5	助動詞（2）（助動詞の認識的用法について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
6	不定詞（不定詞の本質について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
7	動名詞（動名詞の本質について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
8	不可算名詞（不可算名詞について理解し、冠詞との兼ね合いも含めて書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
9	否定（1）（否定について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
10	否定（2）（否定のなかでも含意否定や部分否定の例も含め、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
11	受動態（能動態と受動態の両方を書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
12	比較（同等比較・比較級・最上級について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
13	代名詞 It（Itについて理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
14	副詞（副詞の種類について理解し、書けるようにする）					事前：授業内容で英作文 事後：授業内容で英作文		演習 90分	
15	総まとめ（内容の概観を行う）					事前：授業内容で英作文 事後：なし		演習 90分	
教本： なし					参考文献： 適宜、授業内で紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 課題およびパフォーマンス（100％）で評価する。									
学生へのアドバイス： たくさんの英語を書いてみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語リスニングⅠ（English ListeningⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： この授業はBBC Newsを聞きます。最初は難しいと思いますが、3ヶ月もすれば、自信がついてきます。何度も繰り返すことで、身につきますので、何度も聞くようにしてください。最終的に英語リスニングの力を高め、英検合格への足がかりとなれば幸いです。									
授業目標： 1. 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2. その中でも特に、BBC Newsを聞き取れるようになることを目標とする。 3. 英検準二級程度の英語を聞き取れるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction, BBC News について					事前：なし 事後：音声の復習		演習 90分	
2	主語（BBC Newsの主語の特徴について理解し、聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
3	同格（BBC Newsの主語に対する同格の特徴について理解し、聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
4	動詞（BBC Newsの動詞の特徴について理解し、聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
5	主語と動詞（BBC Newsの主語と動詞の特徴について理解し、聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
6	目的語及び補語（BBC Newsの目的語及び補語の特徴について理解し、聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
7	前置詞（BBC Newsの目的語及び補語の特徴について理解し、聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
8	英検のリスニング（BBC Newsで培ったリスニング力が英検に生かせることを確認する）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
9	書き取り（BBC Newsを実際に書き取る）					事前：音声の復習 事後：ディクテーション		演習 90分	
10	固有名詞（BBC Newsの固有名詞について理解し、聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分	
11	イントネーション（英語のイントネーションについて理解し、聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分	
12	アクセント（英語のアクセントについて理解し、聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分	
13	ピッチ（英語のピッチについて理解し、聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分	
14	接続詞（BBC Newsの接続詞について理解し、聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分	
15	書き取り（BBC Newsを実際に書き取る）および総まとめ					事前：ディクテーション 事後：なし		演習 90分	
教本： BBC Newsの音声を用います。					参考文献： 適宜、授業内で紹介します。				
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（100％）で評価する。									
学生へのアドバイス： 英語を何度も聴いてみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語リスニングⅡ（English ListeningⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： この授業はBBC Newsを聞きます。最初は難しいと思いますが、3ヶ月もすれば、自信がついてきます。何度も繰り返すことで、身につきますので、何度も聞くようにしてください。最終的に英語リスニングの力を高め、英検合格への足がかりとなれば幸いです。									
授業目標： 1. 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2. その中でも特に、BBC Newsを聞き取れるようになることを目標とする。 3. 英検二級程度の英語を聞き取れるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction, BBC News について					事前：なし 事後：音声の復習		演習 90分	
2	主語（BBC Newsの主語の特徴について理解し、より聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
3	同格（BBC Newsの主語に対する同格の特徴について理解し、より聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
4	動詞（BBC Newsの動詞の特徴について理解し、より聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
5	主語と動詞（BBC Newsの主語と動詞の特徴について理解し、より聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
6	目的語及び補語（BBC Newsの目的語及び補語の特徴について理解し、より聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
7	前置詞（BBC Newsの目的語及び補語の特徴について理解し、より聞き取れるようになる）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
8	英検のリスニング（BBC Newsで培ったリスニング力が英検に生かせることを確認する）					事前：音声の復習 事後：音声の復習		演習 90分	
9	書き取り（BBC Newsを実際に書き取る）					事前：音声の復習 事後：ディクテーション		演習 90分	
10	固有名詞（BBC Newsの固有名詞について理解し、より聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分	
11	イントネーション（英語のイントネーションについて理解し、より聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分	
12	アクセント（英語のアクセントについて理解し、より聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分	
13	ピッチ（英語のピッチについて理解し、より聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分	
14	接続詞（BBC Newsの接続詞について理解し、より聞き取れるようになる）					事前：ディクテーション 事後：ディクテーション		演習 90分	
15	書き取り（BBC Newsを実際に書き取る）および総まとめ					事前：ディクテーション 事後：なし		演習 90分	
教本： BBC Newsの音声を用います。					参考文献： 適宜、授業内で紹介します。				
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（100％）で評価します。									
学生へのアドバイス： 英語を何度も聴いてみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語リーディングⅠ（English ReadingⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 英文学を中心に、様々な英文に触れていく授業です。テキストの予習を強くすすめます。予習方法は担当より説明を行います。英文学の文章に触れ、英語への感性を磨くことを目標としています。									
授業目標： 1. 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2. 英文学作品について、自分なりの考え方を表明することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	英文コーパスについて知る。					事前：なし 事後：英文の予習		演習 90分	
2	「85歳の老人」（以下、括弧内はテキスト中の内容・キーワードを示す）の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
3	「オルダーニー牛の反芻」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
4	「ボジニー青年」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
5	「カタツムリ」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
6	「お住まいはどちらですか」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
7	「アイリーニを幸せに」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
8	「30年前に買ったワイン」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
9	「黄金時代の詩」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
10	「思いの丈、泣かせてあげよう」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
11	「コテージピアノ」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
12	「人を深く愛したことがありますか」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
13	「見た目は穏やか」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
14	総まとめおよび質問受付を行う。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
15	総まとめおよび質問受付を行う。					事前：英文の予習確認 事後：なし		演習 90分	
教本： なし					参考文献： 教本は用いませんが、必要に応じてテキストの配布を行います。				
成績評価の方法、評価基準： レポート（100％）で評価する。									
学生へのアドバイス： 英語を丁寧に読むようにして下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	英語リーディングⅡ（English Reading Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 英文学を中心に、様々な英文に触れていく授業です。テキストの予習を強くすすめます。予習方法は担当より説明を行います。英文学の文章に触れ、英語への感性を磨くことを目標としています。									
授業目標： 1. 受講生は、様々なジャンルの英文を読み、目的に応じて情報や考え方を整理することができる。 2. 英文文学作品について、自分なりの考え方を表明することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	英文コーパスについて知る。					事前：なし 事後：英文の予習		演習 90分	
2	「お見せできる一番の花」（以下、テキスト中の内容・キーワードを示す）の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
3	「あの犬は引っ掻く」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
4	「そのうち、なんとかなるでしょう」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
5	「さて、いくらにしようか？」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
6	「ロンドンへ行く用事」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
7	「スマイレの香り」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
8	「充実して過ごす」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
9	「三本か四本か」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
10	「ピアノのレッスン」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
11	「カルメン」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
12	「命」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
13	「4時が過ぎていた」の部分を精読する。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
14	総まとめおよび質問受付を行う。					事前：英文の予習確認 事後：英文の予習		演習 90分	
15	総まとめおよび質問受付を行う。					事前：英文の予習確認 事後：なし		演習 90分	
教本： なし					参考文献： 教本は用いませんが、必要に応じてテキストの配布を行います。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 レポート（100％）で評価する。									
学生へのアドバイス： 英語を丁寧に読むようにして下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	エコツーリズム (Ecotourism)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	古賀 学								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： エコツーリズムの理念を踏まえて、国内外で実施されているエコツーリズムを検証することにより、自然の保護と観光活用のあり方について修得する。									
授業目標： ①エコツーリズムの理念と構造について修得する。 ②観光における環境保全・地域資源保護と利用のあり方について修得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	エコツーリズム論の構造：エコツーリズムの学問的体系について修得する。				事前：エコツーリズムの意味について理解する。 事後：エコツーリズム論の体系を確認する。			復習 10分、講義 70分、 ディスカッション 10分	
2	エコツーリズムの概念：エコツーリズムの発祥、理念、経緯等について修得する。				事前： エコツーリズムの歴史的経緯について考究する。 事後：エコツーリズムの理念について整理する。			復習 10分、講義 70分、 ディスカッション 10分	
3・4	エコツーリズムと施策・法律：エコツーリズム推進法等関連法規及び国等行政における関連施策の内容について修得する。				事前：エコツーリズムに関する国の施策を考究する。 事後：政府エコツーリズムの施策について整理する。			復習 10分、講義 70分、 ディスカッション 10分	
5	エコツーリズムの分類：エコツーリズムが目指す地域振興の目的と意義、保護と活用のあり方等によるエコツーリズムの分類について修得する。				事前：エコツーリズムと地域のあり方について考究する。 事後：自然資源の保護と活用について整理する。			復習 10分、講義 70分、 ディスカッション 10分	
6・7	屋久島とエコツーリズム：屋久島のエコツーリズムの現状、屋久島公認ガイドなどエコツーリズムガイドの役割、制度等について修得する。				事前：地域ガイドの種類について考究する。 事後：エコツーリズムガイドの必要性について整理する。			復習 10分、講義 70分、 ディスカッション 10分	
8	小笠原とエコツーリズム：小笠原におけるエコツーリズムの仕組みと旅行商品特性等について修得する。				事前：小笠原の観光の現状について考究する。 事後：自然と観光のあるべき姿について整理する。			復習 10分、講義 70分、 ディスカッション 10分	
9	ニュージーランドとエコツーリズム：ミルフォードトラックを始めニュージーランドのエコツーリズムの現状、パッケージ型旅行商品の構造について修得する。				事前：ニュージーランドの観光特性について考究する。 事後：パッケージ型旅行商品の利点について整理する。			復習 10分、講義 70分、 ディスカッション 10分	
10	ネパールとエコツーリズム：高地トレッキングなどエコツーリズムの現状、地域開発と環境変化等について修得する。				事前：ネパールの観光について考究する。 事後：ネパールにおける観光開発の法律を整理する。			復習 10分、講義 70分、 ディスカッション 10分	
11	エコツーリズムと計画：エコツアー及び受入体制の整備等エコツーリズム実現のためのプロセス及び計画要素について修得する。				事前：“計画”について考究する。 事後：エコツーリズム計画のプロセスを整理する。			復習 10分、講義 70分、 ディスカッション 10分	
12・13	エコツアーと旅行商品化：エコツアーの種類、実施内容及び受入体制と地域波及効果について修得する。				事前：エコツアーの既存商品について調査する。 事後：エコツアー実施における地域経済効果について整理する。			復習 10分、講義 70分、 ディスカッション 10分	
14	エコツーリズム関連ツアー：ジオ・ツーリズム、里山観光など自然と人間とのかかわりをテーマとしたツアーの検証により、エコツーリズムの今後を考える。				事前：エコ関連ツアーの既存商品について調査する。 事後：エコ関連ツアー実施における地域経済効果について整理する。			復習 10分、講義 70分、 ディスカッション 10分	
15	これからのエコツーリズム：今までの講義をもとにこれからのエコツーリズムのあり方について議論する。				事前：講義の総復習 事後：ワークショップのまとめ			復習 60分 ワークショップ 30分	
教本： テキストは授業ごとにプリントを配布する。					参考文献： 適宜指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 定期試験及び平常点を加味する。									
学生へのアドバイス： 観光を構成する事柄について全般的に学ぶ授業です。自身の興味の方向を見出すつもりで受講してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。基本的には在席中はいつでも可。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	SDGsと人口（Sustainable Development Goals and Population）							科目分類	基礎科目
担 当 教 員	松浦 広明								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	メールおよび授業 Website を定期的にチェックすることができること							
授業概要： 2015年9月25日、日本を含む193か国の指導者たちは、2030年までに達成すべき17個の目標と169のターゲットである「持続可能な開発目標（SDGs）」の採択に合意しました。本講義では、人口学の視点から、2030年におけるSDGsの達成に向け、世界が直面している課題と、それに対する日本および世界の取り組みについて概観します。									
授業目標： 持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けた日本および世界全体の取り組みを理解し、その中で自分がどのように貢献できるかを考え、最終的に実行に結びつけること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）				授業形態	
1	SDGsに向けて			事前：なし 事後：第2章（佐藤・松浦）				講義	
2	経済成長・発展とその決定要因			事前：第7章（佐藤・松浦） Ch3/4. (Sachs) 事後：授業の復習				講義	
3	貧困と不平等			事前：Ch2. (Sachs) 事後：授業の復習				講義	
4	国際機関の取り組み			事前：Handout 事後：授業の復習				講義	
5	人口と経済			事前：UNFPA（2012） 事後：授業の復習				講義	
6	移民と難民			事前：第14章（田中） 事後：授業の復習				講義	
7	教育と労働			事前：Ch8. (Sachs) 事後：課題				講義	
8	こどもと女性			事前：第4章（佐藤・松浦） 事後：課題				講義	
9	グローバル・ヘルスの挑戦：MDGsの下でのGH			事前：Ch9. (Sachs) 事後：授業の復習				講義	
10	グローバル・ヘルスの挑戦：SDGsの下でのGH			事前：前回の授業の復習 事後：授業の復習				講義	
11	グローバル・ヘルスの挑戦：新型コロナウイルスと世界			事前：前回の授業の復習 事後：授業の復習				講義	
12・13	国際観光・国際防災協力とレジリエントな都市			事前：世界観光ランキング(World Tourism Barometer)Ch11.(Sachs) 事後：なし				講義	
(12・13)	JICA 横浜での研修			事前：Handout 事後：課題				演習	
14	SDGsとデータ			事前：第9章（佐藤・松浦） 事後：なし				講義	
15	まとめ			事前：レポート課題 事後：レポート課題				講義	
教本： 佐藤・松浦「SDGsの人口学」（人口学ライブラリー）原書房，2023					参考文献： 田中治彦、三宅隆史、湯本浩之編「SDGsと開発教育：持続可能な開発目標ための学び」学分社、2016 Sachs, J. “The Age of Sustainable Development” Columbia University Press, New York, USA; 2015				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 定期的にメール・授業ウェブサイトを確認できること。									
オフィスアワー：初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	応用データ処理（Data Processing for Data Science）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	井上 明也								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	EXCEL が使用可能なノートパソコンを用意すること							
授業概要： ビッグデータや人工知能（AI）技術の活用領域は急速に拡大しており、デジタル社会の基礎知識として、データサイエンスや AI に関する知識、技術を習得することが望まれている。本講義では、データサイエンス関連科目を学ぶために必要な基礎知識であるデータ処理技術の習得を目指す。本講義では、サンプルデータによる演習課題を通してデータ処理技術とその活用法を学ぶ。									
授業目標： データの基本処理，グラフ化を始めとする可視化処理、データの加工処理，関数やプログラミングによる算出処理など，データ処理・分析のために必要となる表計算ソフトの基本操作から高度な活用法までの習得を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	シラバスの説明、データ処理・分析の概説					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義	
2	表計算ソフトの基本操作と作表の基礎					事前：前回の資料を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
3	数式と基本関数の利用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
4	絶対／相対参照を活用したデータ算出処理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
5	グラフの作成の基本操作と書式変更処理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
6	分析目的に適した作表・グラフ化、書式変更処理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
7	複数のデータシートを活用したデータ処理法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
8	高度な関数の利用によるデータ管理表の作成					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
9	表形式による高度なデータの可視化・分析					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
10	分析目的に適したデータの抽出・加工処理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
11	クロス集計によるデータ分析処理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
12	分析目的に適した高度なグラフ化処理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
13	プログラミング（マクロ）によるデータ分析処理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
14	公開データを活用したデータ加工・分析処理					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
15	まとめ、総合演習問題					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
教本： 講義初回のガイダンスで指示する。					参考文献： 講義内で指示する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 演習課題・レポート等（100％）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	オペレーティングシステム（Operating System）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	井上 明也								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	ノートパソコンを用意すること							
授業概要： オペレーティングシステムの適用対象は、大型計算機やパソコンが主対象であったが、現在では、スマホ、家電製品、IoT 関連機器等、対象は拡大している。オペレーティングシステムを理解することは、プログラミング技術やシステム開発技術を学ぶ上での基礎知識として非常に重要である。講義、演習、グループディスカッションを通じてオペレーティングシステムの基礎技術を理解する。									
授業目標： オペレーティングシステムの主要な概念とその動作原理を理解することを目的とする。また、近年の利用環境の変化を考慮し、ネットワーク機能、セキュリティ機能、運用管理機能等も含めて、幅広く理解することを目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	シラバスの説明、オペレーティングシステムの役割					事前：シラバスを読む 事後：学習内容を復習する		講義	
2	ユーザインターフェース					事前：教科書の指定個所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
3	プログラミングインターフェース					事前：教科書の指定個所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
4	オペレーティングシステムの構成					事前：教科書の指定個所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
5	入出力の制御					事前：教科書の指定個所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
6	ファイルの管理					事前：教科書の指定個所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
7	プロセスとその管理					事前：教科書の指定個所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
8	多重プロセス					事前：教科書の指定個所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
9	メモリの管理					事前：教科書の指定個所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
10	仮想メモリ					事前：教科書の指定個所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
11	仮想化					事前：教科書の指定個所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
12	ネットワークの制御					事前：教科書の指定個所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
13	セキュリティと信頼性					事前：教科書の指定個所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
14	システムの運用管理					事前：教科書の指定個所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
15	性能、標準化					事前：教科書の指定個所を読む 事後：学習内容と課題を復習する		講義 60分 演習 30分	
教本：IT Text オペレーティングシステム 改定2版、野口、光来、品川、オーム社、¥3,080 参考文献：講義内で指示する									
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（100％）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	音楽で遊ぶ（音楽表現）(Play with Music)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	鹿戸 一範								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 子どもの音楽活動を支える基礎的な技能としてピアノの演奏技術と実践力を養う。音楽の基礎的な知識（楽典）やソルフェージュ、保育現場での音楽表現活動の指導で求められる「弾き歌い」のためのピアノ伴奏法についても学ぶ。									
授業目標： 領域「表現」の音楽的表現に関わる内容を持ち、保育内容としての音楽表現活動を理解し実践する力を養う。保育者に必要な音楽表現を身につけ楽しむ姿勢を持ち、適切に表現する力を養う。この科目は、幼児期の子どもの発達について、多面的かつ総合的な理解力を有する人材を養成する科目である。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション〔授業内容、進め方について〕					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
2	ハ長調の和音・分散和音の伴奏形① 教本 No.1～8 弾き歌いの導入①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
3	分散和音の伴奏形②・③ 教本 No.9～16 弾き歌いの導入②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
4	分散和音の伴奏形④ 4分音符と8分音符 教本 No.17～24 生活のうた弾き歌い①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
5	ハ長調の主要三和音 教本 No.25～26 生活のうた弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
6	ヘ長調の主要三和音 教本 No.27～32 春のうた弾き歌い①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
7	ト長調の主要三和音 教本 No.33～38 春のうた弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
8	いろいろな伴奏形 教本 No.39～42 夏のうた弾き歌い①、中間発表会					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
9	高い音の練習 教本 No.43～46 夏のうた弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
10	3/8拍子と6/8拍子 教本 No.47～48 秋のうた弾き歌い①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
11	付点4分音符を用いたリズム 教本 No.49～54 秋のうた弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
12	ハ長調の音階 教本 No.55～58 冬のうた弾き歌い①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
13	ヘ長調の音階 教本 No.59～61 冬のうた弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
14	ト長調の音階 教本 No.62～67 行事のうた弾き歌い					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
15	これまでの授業のまとめと発表					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
教本： 『教職課程のための大学ピアノ教本』大学音楽教育研究グループ、教育芸術社 『いちばんカンタン！ 保育のうたピアノ伴奏』安藤 真裕子 他、ナツメ社					参考文献： 必要に応じてプリントを配布する				
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、発表（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス：									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	音楽表現（Musical Expression）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	鹿戸 一範								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 子どもの音楽活動を支える基礎的な技能としてピアノの演奏技術と実践力を養う。音楽の基礎的な知識（楽典）やソルフェージュ、保育現場での音楽表現活動の指導で求められる「弾き歌い」のためのピアノ伴奏法についても学ぶ。									
授業目標： 領域「表現」の音楽的表現に関わる内容を持ち、保育内容としての音楽表現活動を理解し実践する力を養う。保育者に必要な音楽表現を身につけ楽しむ姿勢を持ち、適切に表現する力を養う。この科目は、幼児期の子どもの発達について、多面的かつ総合的な理解力を有する人材を養成する科目である。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション〔授業内容、進め方について〕					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
2	ハ長調の和音・分散和音の伴奏形① 教本 No.1～8 弾き歌いの導入①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
3	分散和音の伴奏形②・③ 教本 No.9～16 弾き歌いの導入②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
4	分散和音の伴奏形④ 4分音符と8分音符 教本 No.17～24 生活のうた弾き歌い①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
5	ハ長調の主要三和音 教本 No.25～26 生活のうた弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
6	ヘ長調の主要三和音 教本 No.27～32 春のうた弾き歌い①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
7	ト長調の主要三和音 教本 No.33～38 春のうた弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
8	いろいろな伴奏形 教本 No.39～42 夏のうた弾き歌い①、中間発表会					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
9	高い音の練習 教本 No.43～46 夏のうた弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
10	3/8拍子と6/8拍子 教本 No.47～48 秋のうた弾き歌い①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
11	付点4分音符を用いたリズム 教本 No.49～54 秋のうた弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
12	ハ長調の音階 教本 No.55～58 冬のうた弾き歌い①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
13	ヘ長調の音階 教本 No.59～61 冬のうた弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
14	ト長調の音階 教本 No.62～67 行事のうた弾き歌い					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
15	これまでの授業のまとめと発表					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
教本： 『教職課程のための大学ピアノ教本』大学音楽教育研究グループ、教育芸術社 『いちばんカンタン！ 保育のうたピアノ伴奏』安藤 真裕子 他、ナツメ社					参考文献： 必要に応じてプリントを配布する				
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、発表（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス：									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	音声学 (Phonetics)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 英語の音声についてテキストを用いると同時に、それに伴うCDを聞きながら授業を進める。間違いやすい、あるいは難しい音声について実践練習をし、英語音の連結、脱落、弱化などの現象を理解するだけでなく、実際に練習を通して体得する。									
授業目標及びテーマ： 中学校や高等学校で正しく英語の音声指導ができる力をつけることが目標である。英語の音素、アクセント、リズム、イントネーションなどの特徴を確認することがテーマであり、日本語との比較の視点を取り入れて授業を行う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	イントロダクションー本科目を学ぶ意義と授業全体の構成について説明を行う					事前：シラバスを確認する 事後：テキスト記入		演習 90分	
2	音の発声ー母音と子音の種類について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
3	英語のアクセントー音節と強勢、子音結合、句の強勢について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
4	英語のリズムについて演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
5	紛らわしい母音について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
6	紛らわしい子音について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
7	つながって聞こえる音（連結）について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
8	変化して聞こえる音（同化）について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
9	聞こえなくなる音（1）単語間の脱落について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
10	聞こえなくなる音（2）単語内の脱落・短縮形について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
11	英語のイントネーションのパターンについて演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
12	英語のイントネーションと文中のポーズについて演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
13	World Englishes について演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
14	英語の数量表現の聞き取りについて演習を通して理解する。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
15	まとめと復習、音声実技試験を行う。					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		演習 90分	
教本： 『新しいご・エイゴ・英語学』 稲木昭子 ほか 松柏社					参考文献： 授業内で紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 期末考査（100％）で評価する。									
学生へのアドバイス： 英語の音声をたくさん聴くようにしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									